



運転教習

ファガフテ 2019

運転教習

導入	3
民俗学校の目的	4
共通の目標	5
カリキュラム	15
指導ガイド	31

導入

この冊子は、2019年度交通教育教科冊子の改訂第2版です。

小学校の最も重要な目的の1つは、保護者と協力して生徒に知識とスキルを与えることです。フォルケスコールの主題と主題はこの目的の中心です。教科や科目を教えることによって、生徒はさらなる教育への準備を整え、もっと学びたいという意欲を得る必要があります。民俗学校の教科と科目はまた、個々の生徒の多面的な発達の促進に貢献し、自由と人民政府を備えた社会への参加、共同責任、権利と義務のために生徒を準備させなければなりません。

学校は毎日、学校と教科の目的を達成するために重要な取り組みを行っています。

学校は、教師、管理者、教育者が専門的な判断に基づき、地域の状況に応じて適切な教育を組織するという任務において支援しなければなりません。児童教育省は、教育の枠組みを明確にし、教科専門家の業務を支援するために、教科や科目の指標となるカリキュラムと指導ガイドを作成しています。2019年からの同省のカリキュラムと指導要領では、特に2つの側面が強調されている。それは、学校の目的、教科の目的と個々の教科の内容との関連性である。そして教育の組織化における専門的な裁量。

カリキュラムと指導ガイド(2019年)は、共通目標の緩んだ絆を反映しています。教育に関する国家的枠組みは依然として共通目標に定められています。科目の目的、能力分野、能力目標、および関連するスキルと知識分野によって、生徒が特定の学年レベルの終わりに何を行うことができなければならないかが決まります。

科目冊子には、科目の目標、カリキュラム、指導上のガイダンスが記載されています。カリキュラムには教育内容の発展が記述されており、能力目標を達成することを目的として編成されています。カリキュラムには、スキルと知識の分野に基づいた教育の組織化をサポートする段階的なプロセスが記載されています。カリキュラムは市議会の承認が必要です。児童教育省の資料を使用することも、独自の資料を作成して承認することもできます。指導ガイドは、その科目を教えるためのインスピレーションを提供します。

これらの枠組みの中で、科目の多様性、学生の職業上の前提条件を尊重し、学生の専門的かつ多角的な能力開発に焦点を当て、教育を組織するための方法論的および教学的な自由があります。これに基づいて、教育では、専門的な没入のための最良の前提条件、状況の概要と経験、および個々の科目に固有の能力、スキル、知識を獲得する機会を学生に提供する必要があります。

小学校、専門学校、専門団体の多くの専門家がカリキュラムや指導ガイドの設計の中心となってきました。児童教育省が教材の最終デザインを担当します。

小学校における共通目標の自由度の向上に関する合意

2017年5月19日、Folkeskoleforligskredsenは民俗学校における共通目標の自由の拡大に関する協定を締結しました。この合意により、共通目標の絆が緩められ、共通目標におけるすべてのスキルと知識の目標が示されるようになります。この結果、小学校法が改正され、共通の目的と幼稚園クラスに関する政令も改正されました。

この協定のフォローアップとして、児童教育省は小学校の科目と必修科目の参考カリキュラムと指導ガイドを発行した。カリキュラムと指導ガイド(2019年)は、学校の目的と科目の共通目標とともに科目冊子にまとめられています。

民俗学校の目的

§ 1. 民俗学校は、保護者と協力して、次のような知識とスキルを生徒に与えなければなりません: さらなる教育の準備をさせ、さらに学びたいと思わせる、デンマークの文化と歴史に精通させる、他の国についての理解を与えると文化を学ぶことで、人間と自然との相互作用の理解に貢献し、個々の生徒の多面的な発達を促進します。

PCS。 2. 小学校は、生徒が認知力と想像力を養い、自らの可能性と背景に自信を持って立ち上がって行動できるように、作業方法を開発し、経験、没入、および作業意欲のための枠組みを作成する必要があります。

PCS。 3. 公立学校は、自由と人民政府を備えた社会への参加、共同責任、権利と義務を生徒に備えさせなければなりません。したがって、学校の活動は精神の自由、平等、民主主義によって特徴付けられなければなりません。



共通の目標

コンテンツ

1 主題の目的	7
<hr/>	
2 共通の目的	8
コンピテンシーの目標	8
学年ごとの共通の目標	
3年生以降	10
6年生以降	10
9年生以降	10
専門分野ごとの共通目標	
交通行動	12
事故管理	12

1 主題の目的

交通教育では、学生は自分自身や他人に危険を及ぼすことなく、安全かつ責任を持って交通運転を行うスキルを身につけ、交通事故が発生した場合に応急処置ができるようにする必要があります。

PCS。 2.交通状況での運転に関する知識と経験を通じて、生徒は、交通状況での自分の行動が、行動の選択肢を与えると同時に、自分自身や他の道路利用者の動きに制限を設ける状況の一部であることを学ばなければなりません。応急処置の知識と技術を通じて、学生は交通事故に関連した支援ができなければなりません。

PCS。 3.交通教育においては、学生は、自分の運転に関して、また応急処置が必要な事故が発生した場合の交通における共同責任と義務を理解する、注意力があり責任ある道路利用者にならなければなりません。

2 共通の目標

コンピテンシーの目標

専門分野	3年生以降	6年生以降	9年生以降
交通行動	学生が安全に移動できる 地元の渋滞中。	学生は歩けます 交通中でも安全。	学生が安全に移動できる そして交通事故では責任を持って行動してください。
事故管理	学生は学校敷地内での怪我に関連して 手助けをすることができます。	学生は交通事故で怪我をした場合に応急 処置を行うことができます。	学生は、交通事故で怪我をした場合に、 救命のための応急処置を行うことができ ます。

次のページの表を参照してください



学年ごとの共通の目標

3年生以降

専門分野	能力目標	スキルと知識の分野と目標				
		フェーズ				
交通行動	学生は地元 の交通渋滞の中 でも安全に移動 できます。	交通規則		独自のセキュリティ		
		1.	学生は、交通規則に従って、交通渋滞の中 で一人で徒歩で移動することができます。	学生は歩行者の交通ルール についての知識を持 っています。	学生は交通事故の際に自分の身を守 ることができます。	学生は時間帯や季節に応じ た交通安全装置の知識 を持っています。
		2.				
		3.				
		4.				
事故処理	生徒は学校の 敷地内で怪我 をしたときの手助 けをすることができます。	安全を創造する		傷害の評価		
		1.	学生は、学校敷地内での事 故で負傷した人に対して 保険を掛けることができ ます。	その生徒は学校の敷地内 で負傷者を保護する知識を持 っています。	学生は負傷者の意識があるか どうかを確認できます。	学生は意識の緩みの特徴 についての知識を持ってい ます。
		2.				
		3.				
		4.				

6年生以降

専門分野	能力目標	スキルと知識の分野と目標				
		フェーズ				
交通行動	学生は交通渋 滞の中でも安全に移 動できます。	交通規則		独自のセキュリティ		
		1.	生徒は交通ルールに従って、交通渋滞 中を一人で自転車に乗 ることができます。	学生は自転車の交通ルール についての知識を持っ ています。	生徒は渋滞の中でも注意 して運転することができます。	学生は交通における注意をそらすも のについての知識を持っています。
		2.				
		3.				
事故処理	学生は交通事 故で怪我をした場合 に応急処置を行 うことができます。	安全を創造する		死傷者の評価		
		1.	学生は交通量の少ない場 所で交通を停止すること で負傷者を保護できま す。	この学生は、交通量の少な い場所で負傷者を保護する知識 を持っています。	学生は負傷者の呼吸を評 価し、自由な気道を 確保することができます。	学生は通常の呼吸の特徴 についての知識を持ってい ます。
		2.				
		3.				

9年生以降

専門分野	能力目標	スキルと知識の分野と目標				
		フェーズ				
交通行動	生徒は交通渋滞 の中でも安全かつ責任 を持って運転するこ とができます。	交通規則		独自のセキュリティ		
		1.	学生は、交通ルールに従い、 他の道路利用者を考 慮して交通状況を走行 することができます。	学生は他の道路利用者との 交流を通じて交通ルールの知 識を身につけます。	学生は交通事故で怪我を するリスクを減らすことが できます。	学生は交通における危険因子 についての知識を持ってい ます。
		2.				
		3.				
事故処理	学生は、交通事 故で怪我をした場合に、 救命のための応急処 置を行うことができ ます。	安全を創造する		傷害の評価		
		1.	生徒は緊急避難を利用し て負傷者を確保するこ とができます。	学生は緊急避難の実 行に関する知識を持 っています。	学生が評価できるのは、 負傷者の心臓機能。	学生は循環不全の特徴に ついての知識を持 っています。
		2.				
		3.				

共通の目標における拘束力のあるフレームワーク

示唆的なスキルと知識の目標

スキルと知識の分野と目標

他の道路利用者		安全なルート		自転車でも安全	
学生は他の道路利用者を 読むことができます。	学生は道路利用者とその信号 についての知識を持っています。	学生は歩行者にとって安全な ルートを選択できます。	学生は歩行者にとって安全な ルートの特徴についての知識を持 っています。	生徒は基本的な交通ルールに 従って、閉鎖されたエリア内 で自転車を操作することができます。	学生は自転車に乗るた めの基本的な交通ルールの 知識を持っています。
助けを呼びます		応急処置			
生徒は大人に助けを求め ることができます。	生徒は助けを求める方法につ いての知識を持っています。	学生は負傷者を安定した 側臥位に置き、切り傷や擦り傷を 治療することができます。	学生は安定した側臥位と軽 傷の治療に関する知識を持 っています。		

スキルと知識の分野と目標

交通中のインタラクション		安全なルート	
学生は状況を予測できる 渋滞に巻き込まれ、それに応じて移動を 調整します。	学生は、他のタイプの道路利用者 に伴うリスクについての知識を持 っています。	学生は自転車に乗る人にとって安全な ルートを選択できます。	学生は自転車に乗る人にとって安全な ルートの特徴についての知識を持 っています。
助けを呼びます		応急処置	
学生は、事故の名前、場所、出来事を 告げる警報電話をかけること ができます。	学生は緊急通報に必要な情報 についての知識を持っています。	学生は脳震盪や骨折の治療を 手伝えることができます。	学生は脳震盪の症状と骨折の 安定化についての知識を持 っています。

スキルと知識の分野と目標

責任		結果の計算	
学生は交通渋滞の中で責任を持 って運転することができます。	学生は交通における責任につ いての知識を持っています。	学生は、交通中の行動によ って起こり得る結果を評価 できます。	学生は、交通中の行動によ って起こり得る結果につ いての知識を持っています。
助けを呼びます		応急処置	
学生は事故の状況に応じて 助けを求めることができます。	学生は専門家の助けを必要 とする知識を持っています。	学生はテクニックをデモン ストレーションでできる 心肺蘇生と生命を脅かす 出血を止めるために。	学生は人命救助の知識を持 っている応急処置。

専門分野ごとの共通目標

交通行動

学年		能力目標の段階		スキルと知識の分野と目標			
3年生以降	学生は地元の交通渋滞の中でも安全に移動できます。		交通規則		独自のセキュリティ		
			1. 学生は、交通ルールに従って、交通渋滞の中で一人で歩いて移動することができます。	学生は歩行者の交通ルールについての知識を持っています。	学生は交通事故の際に自分の身を守ることができます。	学生は時間帯や季節に応じた交通安全装置の知識を持っています。	
			2.				
			3.				
			4.				
6年生以降	学生は交通渋滞の中でも安全に移動できます。		交通規則		独自のセキュリティ		
			1. 生徒は交通ルールに従って、交通渋滞中を一人で自転車に乗ることができます。	学生は自転車の交通ルールについての知識を持っています。	生徒は渋滞の中でも注意して運転することができます。	学生は交通における注意をそらすものについての知識を持っています。	
			2.				
			3.				
9年生以降	生徒は交通渋滞の中でも安全かつ責任を持って運転することができます。		交通規則		独自のセキュリティ		
			1. 学生は、交通規則に従い、他の道路利用者を考慮して交通状況を走行することができます。	学生は他の道路利用者との交流を通じて交通ルールの知識を身につけます。	学生は交通事故で怪我をするリスクを減らすことができます。	学生は交通における危険因子についての知識を持っています。	
			2.				
			3.				

事故管理

学年		能力目標の段階		スキルと知識の分野と目標			
3年生以降	生徒は学校の敷地内で怪我をしたときの手助けをすることができます。		安全を創造する		傷害の評価		
			1. 学生は、学校敷地内での事故で負傷した人に対して保険を掛けることができます。	その生徒は学校の敷地内で負傷者を保護する知識を持っています。	生徒は識別できる負傷者の意識があるかどうか。	学生は無意識の特徴についての知識を持っています。	
			2.				
			3.				
			4.				
6年生以降	学生は交通事故で怪我をした場合に応急処置を行うことができます。		安全を創造する		死傷者の評価		
			1. 学生は交通量の少ない場所で交通を停止することで負傷者を保護できます。	この学生は、交通量の少ない場所で負傷者を保護する知識を持っています。	学生は負傷者の呼吸を評価し、自由な気道を確保することができます。	学生は通常の呼吸の特徴についての知識を持っています。	
			2.				
			3.				
9年生以降	学生は、交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を行うことができます。		安全を創造する		傷害の評価		
			1. 生徒は緊急避難を利用して負傷者を確保することができます。	学生は緊急避難の実行に関する知識を持っています。	学生は負傷者の心血管機能を評価できます。	学生は循環不全の特徴についての知識を持っています。	
			2.				
			3.				

■ 共通の目標における拘束力のあるフレームワーク

■ 示唆的なスキルと知識の目標

スキルと知識の分野と目標

他の道路利用者		安全なルート		自転車でも安全	
学生は他の道路利用者を読むことができます。	学生は道路利用者とその信号についての知識を持っています。	学生は歩行者にとって安全なルートを選択できます。	学生は歩行者にとって安全なルートの特徴についての知識を持っています。	生徒は基本的な交通ルールに従って、閉鎖されたエリア内で自転車を操作することができます。	学生は自転車に乗るための基本的な交通ルールの知識を持っています。
交通中のインタラクション		安全なルート			
生徒は交通状況を予測し、それに応じて動きを調整することができます。	学生は、他のタイプの道路利用者に伴うリスクについての知識を持っています。	学生は自転車に乗る人にとって安全なルートを選択できます。	学生は自転車に乗る人にとって安全なルートの特徴についての知識を持っています。		
責任		結果の計算			
学生は交通渋滞の中で責任を持って運転することができます。	学生は交通における責任についての知識を持っています。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果を評価できます。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果についての知識を持っています。		

スキルと知識の分野と目標

助けを呼びます		応急処置	
生徒は大人に助けを求めることができます。	生徒は助けを求める方法についての知識を持っています。	学生は負傷者を安定した側臥位に置き、切り傷や擦り傷を治療することができます。	学生は安定したサイドベアリングと軽傷の治療に関する知識を持っています。
助けを呼びます		応急処置	
学生は、事故の名前、場所、出来事を告げる警報電話をかけることができます。	学生は緊急通報に必要な情報についての知識を持っています。	学生は脳震盪や骨折の治療を手伝うことができます。	学生は脳震盪の症状と骨折の安定化についての知識を持っています。
助けを呼びます		応急処置	
学生は事故の状況に応じて助けを求めることができます。	学生は専門家の助けを必要とする知識を持っています。	学生は、心肺蘇生法と生命を脅かす出血を止める技術を実演することができます。	学生は救命救急の知識を持っています。



カリキュラム

コンテンツ

1 カリキュラムの機能について	17
2 カリキュラムの構成	18
3 対象者の目的と正体	19
4 被験者の能力分野と能力目標	20
4.1 交通行動	20
4.2 事故処理	21
5 指導内容の発展	22
5.1 幼稚園から小学3年生までのステップ	22
5.2 4.~6.のステップシーケンス学年	24
5.3 7年生から9年生までのステップ。学年	26
6 横断的なトピックと問題	28
7つの横断的テーマ	29
7.1 言語の発達	29
7.2 ITとメディア	29
7.3 イノベーションと起業家精神	29

1 カリキュラムの役割について

カリキュラムには、その科目を教えるための基礎が記載されています。カリキュラムは、学校の目的、教育組織に関する法律の中心規定、および共通目標の教科固有の規定の間の関係を解釈します。

教科の目標は、その教科が小学校の目的の達成にどのように貢献するかを説明し、教科における教育の組織化の一般的な方向性を示します。

したがって、教科の目的とその基礎となる能力目標、およびスキルと知識の領域は、教育内容の選択に関する考慮事項を含め、教育の構成に関する教師の考慮事項の全体的な枠組みとなります。

カリキュラムは、拘束力のある能力目標と共通目標のスキルおよび知識領域を展開し、学術内容が具体化されます。

カリキュラムでは、能力目標について詳しく説明し、教師が内容を選択するためのフレームワークを提供するために、能力目標に関連付ける必要がある内容と進捗について説明します。カリキュラムは、個々の段階での被験者の能力目標の下にある、拘束力のあるスキルと知識の領域について説明します。スキルおよび知識分野は、専門的目標を達成するための取り組みの出発点として、能力目標の達成に向けた作業における決定的な専門的要素を見出し形式で示し、教育の組織化の出発点を形成する必要があります。

交通教育は幼稚園から9年生までの小学校の必修科目です。

幼稚園から3年生、4年生から6年生の3段階に分けて指導します。学年と7年生から9年生クラス。交通教育は必修科目であり、独立した時間数が割り当てられるわけではありません。

どの教科で交通教育を行わなければならないかを決定するのは学校長の責任です。

2 カリキュラムの構成

第3章では、被験者の目的と正体について説明します。

第4章では、対象者の能力領域と能力目標、およびそれらの間の関連性について説明します。

第5章では、幼稚園から3年生、4～6年生までの段階ごとの指導内容の展開が書かれています。学年レベルと7～9年生学年。説明は、ステップ プロセスに関連付けられたコンピテンス目標とコンピテンス領域に基づいています。

第6章では、学校における横断的な教科や問題に取り組む際の教科の役割について説明します。

第7章では、交通教育が小学校の横断的テーマの取り組みにどのように貢献できるかについて説明します。

3 対象者の目的と正体

主題の目的

交通教育では、学生は自分自身や他人に危険を及ぼすことなく、安全かつ責任を持って交通運輸を行うスキルを身につけ、交通事故が発生した場合に応急処置ができるようになる必要があります。

PCS。2.交通状況での運転に関する知識と経験を通じて、生徒は、交通状況での自分の行動が、行動の選択肢を与えると同時に、自分自身や他の道路利用者の動きに制限を設ける状況の一部であることを学ばなければなりません。応急処置の知識と技術を通じて、学生は交通事故に関連した支援ができなければなりません。

PCS。3.交通教育においては、学生は、自分の運転に関して、また応急処置が必要な事故が発生した場合の交通における共同責任と義務を理解する、注意力があり責任ある道路利用者にならなければなりません。

交通教育の指導は、学習方法や指導の枠組みと同様に、生徒が習得した知識や技能を通じて、多面的な発達を促進するという小学校法第1条の小学校の目的と関連しています。積極的な立場を確立して行動できる意識を育みます。

交通教育はまた、学生が自由と人民政府を備えた社会への参加と共同責任の準備をさせます。

小学校卒業後の生徒は、交通事故が最も危険な10年間に直面するため、必修科目の学習を通じて交通事故のリスクを最小限に抑える適切な交通行動を学ぶことができるため、交通教育に取り組むことは生徒の一般教育の重要な部分となります。今ここで、そしてその後の人生で怪我をする。

交通教育では、交通中での移動方法についての学習が行われ、生徒は交通が単独でも他の人との交流でも行われることを学びます。学生は、年齢と成熟度に応じて、さまざまな方法で交通事故に対処することを学びます。歩行者から自転車へ、そして地元環境での移動から一般的な交通中の移動へと進行します。

交通教育に取り組む中で、学生は理論と実践がどのように密接に結びついているかを学ばなければなりません。生徒が授業や関連教材の学習を通じて学ぶ知識や理論は、その後、生徒が日常生活で経験する具体的な現実と結び付けることができなければなりません。学校への往復旅行。

行動指向で対話ベースの教育を通じて、生徒の知識とスキルを活用することができます。学生は、交通において安全な選択をすることを学び、自分の交通行動が他の人にどのように影響され、影響を与えるかを理解する必要があります。

4 被験者の能力分野と能力目標

交通教育では、交通行動と事故処理という2つの能力分野に基づいて作業が行われます。

交通教育では、生徒は交通において安全かつ責任を持って運転するスキルを習得しなければなりません。生徒は、交通事故を避けるために、交通の中で自分自身と他人に気を配ることを学ばなければなりません。また、事故が起こった場合には助ける方法を学ばなければなりません。

学生がスキル、知識、態度の習得を通じて、安全で責任ある道路利用者となるよう訓練されることが中心です。学生は、交通規則に従い、自分自身で安全な選択をすることで、自分の安全を守ることを学ばなければなりません。そうすることで、適切な交通行動を身につけることができます。

さらに、学生は他の道路利用者との交流の中で安全に運転することを学ばなければなりません。そのためには、学生は注意深く責任を持って運転し、交通中の危険な状況を予測するスキルを習得する必要があります。

学生は、事故が発生した場合に自分自身や他の人を助ける方法を学ばなければなりません。学生たちは、事故が起きたときに自分たちにできることがあるという自信を持ち、負傷者を助ける技術を身につけなければなりません。

道路利用者としての個々の生徒に基づいて、指導には現実世界の状況を含め、学術ベースの指導と実践ベースの指導の両方で構成する必要があります。

指導は能力分野に基づいて編成されます。

個別の教育コースでは、能力分野全体にわたるいくつかのスキルと知識分野を使って作業を行うことが重要です。また、単一の科目への没入と学際的な学習との間で相互作用するように教育が組織化されることも目指す必要があります。

4.1 交通行動

交通行動については、歩行や自転車のテストなどの教育を通じて、交通の中で自分自身や他人を守る能力が継続的に開発されます。同様に、交通ルール、交通中の危険な状況を予測する能力、および交通中の行動の結果を評価する能力の開発に焦点を当てなければなりません。

交通行動のコンピテンス領域におけるコンピテンス目標とその進捗状況の概要

幼稚園クラスから小学3年生まで	4位～6位クラス	7位～9位クラス
学生が安全に移動できる 地元の渋滞中。	学生が安全に移動できる 渋滞の中で。	学生が安全に移動できる そして交通事故では責任を持って行動してください。

教科指導の進歩は、3年生以降の生徒が地元の地域を安全に徒歩で移動できるようになり、安全な環境で自転車に乗る経験を積むことにつながる必要があります。

6年生以降は、徒歩や自転車で交通状況を安全に移動できなければなりません。彼らは交通における相互作用を理解する必要があります。9年生以降の生徒が安全かつ責任を持って交通状況を運転できるようにするための取り組みが行われています。彼らは、交通に関連するリスクと選択の結果を理解する必要があります。

4.2 事故管理

事故処理については、生徒は学校の敷地内や交通事故が発生した場合に救助し、応急処置を行う能力を身につけるように努めなければなりません。学校のコース全体を通じて、教育は助けを求める能力、交通事故の周囲で安全を確保する能力、そして人がどのように、どの程度負傷したかを評価する能力に焦点を当てなければなりません。

交通事故で負傷した場合に応急処置を行う能力も継続的に開発する必要があります。

事故管理の能力領域における能力目標とその進捗状況の概要

幼稚園クラスから小学3年生まで	4位～6位クラス	7位～9位クラス
学生は学校敷地内での怪我に関連して手助けをすることができます。	学生は交通事故で怪我をした場合に、応急処置を行うことができます。	学生は、交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を行うことができます。

指導の進捗としては、3年生以降は学校敷地内での事故で生徒が助けを求めたり、負傷者の確保や救助ができるようになる。6年生以降は、交通事故で負傷した人に助けを求めたり、安全を確保したりできなければなりません。彼らは応急処置を提供できなければなりません。

学生が助けを求め、交通事故で負傷した人を確保できるようにする取り組みが行われています。

交通事故で負傷した場合に、救命のための応急処置を提供できます。

2つの能力分野に共通するのは、教育が交通状況に基づいているということです。交通行動の場合は予防措置の問題であり、事故管理の場合は、事故が発生した場合に生徒が正しく行動する準備ができていることが当てはまります。

コンテンツの開発 5

教える上で

5.1 幼稚園から小学3年生までのステップ

このステップの焦点は、学生が安全な歩行者になるよう努力することです。目的は、学生たちが地元の交通での安全運転を学ぶことです。このステージの子どもたちは、交通の中で一人で歩くことを学ぶために必要な前提条件を備えていることが期待されるため、歩行者としての学生に焦点が当てられています。

学生は自転車の運転方法も学ぶ必要があります。運動能力の発達とスキルに重点を置く必要があります。目標は、生徒が慣れた道を一人で自転車で走れるようになることです。したがって、教育の出発点は生徒の地元環境です。

さらに、この段階では、生徒は学校の敷地内で交通関連の事故が発生した場合の救助の仕方を学びます。学生たちは、車やその他の電動車両のない場所で安全を作り出す方法を学びます。この支援では、学生たちがケアの提供、軽傷への対処、大人の形で助けを求めることを学びます。指導は応急処置の基本原則に基づいています。

交通行動に関する能力目標

学生は地元の交通渋滞の中でも安全に移動できます。

このステップの交通行動では、学生は地域の交通状況を安全に運転できます。能力目標は、学生が道路利用者としての自分の役割を理解し、自分自身を大切にすることとお互いを大切にすることを示唆しています。

生徒は、安全な歩行者から初心者の自転車に乗るまでの段階があることを理解するようになります。

コンピテンス領域のトラフィック動作には、次の5つのスキルおよび知識領域が含まれます。

- 交通規則。この指導には、どのようなルールや指示が歩行者に適用されるのかを生徒が学ぶ作業が含まれます。
- 独自のセキュリティ。この授業には、交通における安全装置の使用法とその効果について学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれます。
- その他の道路利用者。この指導には、サイズ、速度、目的の観点から、さまざまなタイプの道路利用者を区別する方法を学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれます。
- 安全なルート。この指導には、生徒たちと協力して、歩行者にとってどのルートが最も安全であるかを学ぶことが含まれます。
- 自転車でも安全。教育には、操縦を学ぶ生徒たちとの作業が含まれます。

自転車に乗って。

交通規則

教育には、歩行者に適用されるルールや指示に関する作業が含まれます。学生たちはどこに行くことができますか？道路を安全に渡るにはどうすればいいのでしょうか？渋滞に巻き込まれたときに重要なことは何ですか？授業時間中や登下校時に安全に歩けるように重点を置き、生徒の身近な環境に基づいた指導が可能です。

独自のセキュリティ

この教育には、安全装置の使用と交通中の視認性に関する作業が含まれます。指導は、自転車のヘルメット、ライト、反射板、明確な色の衣服、安全ベルト、および交通安全に関連したこの装備の効果に基づいて行うことができます。時間帯と季節が安全にどのような影響を与えるか、またこれに関連してどの安全装置を使用することが重要であるかについて作業を行うことができます。この指導は、交通の中で自立つことがいかに重要であるか、そして自転車用ヘルメットの助けを借りて重大な頭部損傷から身を守る方法を生徒に学習させることにつながります。

他の道路利用者

この教育には、サイズや速度などに関連して、さまざまなタイプの道路利用者を生徒がどのように区別できるかについての学習が含まれます。ハードな道路ユーザーとソフトな道路ユーザーの違いは何ですか？たとえば、視界、速度、距離が限られているために特別な注意を払う必要がある車両はありますか？この教育により、生徒は他の道路利用者の意図や行動を予測できるようになります。

安全なルート

この指導には、生徒が歩行者として安全に移動する方法に関する取り組みが含まれます。歩行者にとって安全なルートの特徴は何ですか？これらは、交通量が限られており、概観条件が良好な道路システム、横断歩道、歩行者用トンネル、道路などで機能します。安全なルートに取り組むことで、学生は歩行者としてどのエリアやルートが最も安全なのか、ルート上のどこで道路を横断するのが最適なのかを学ぶことができます。

この教えは、最も安全なルートが必ずしも最短ルートではないことを生徒に理解させます。

自転車でも安全

指導には、生徒の自転車の操縦スキルの練習も含まれます。これは、校庭などの閉鎖された場所での実践的な演習を通じて行うことができます。指導は、安全な発進とブレーキのかけ方、自転車のバランスを崩さずに自分の体を後ろや横に向けること、合図を出せることを生徒が学ぶことに基づいて行うことができます。この指導は、生徒が安全な歩行者から初心者の自転車乗りになる準備を整えることにつながります。

事故管理のための能力対策

学生は学校敷地内での怪我に関連して手助けすることができます

このステージでのアクシデント処理については、学生が手伝うことができなければなりません。校庭での怪我。能力目標は、ほんの少しの助けでも大きな助けになることを理解し、交通事故が起きた場合には勇気を出して介入できるよう努めることを目的としています。

能力分野の事故管理には、次の4つのスキルおよび知識分野が含まれます。

- 安全を確保します。この指導には、自動車交通のない地域で負傷者の周囲に安全を確保する方法を学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれます。
- 傷害の評価。この指導には、適切な援助を提供することを目的として、負傷者の状態を評価する方法を学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれています。
- 助けを呼びます。この指導には、助けを求めることを学ぶ生徒たちへの取り組みも含まれます。
- 応急処置。教育には、治療を学ぶ生徒たちとの作業が含まれます。

小さな衝突や擦り傷、人を安定した横向きの姿勢に置くこと。

安全を創造する

この教えには、他の道路利用者を停止させることで、負傷者の周囲に安全を作り出す方法を学ぶことができるという内容が含まれています。この教育は主に、電動車両のない地域のソフトな道路利用者に対応できます。

傷害の評価

この教育には、負傷者の意識があるかどうかを評価する作業が含まれています。これは、たとえば、接触の影響や電話による接触の試みについて学習する生徒によって実行できます。

助けを呼びます

この教育には、事故が起きた場合に大人に電話して助けを求めることの重要性についての取り組みも含まれています。生徒たちは、事故が重大な場合には112番に通報する必要があることも学ぶことができます。生徒たちは、自分自身または若すぎてすべての責任を負うことができないため、最も重要な仕事は助けを求めることであることを理解できます。

応急処置

この教えには、皮膚の擦り傷や軽度のへこみなどの軽傷を治療する作業が含まれています。また、生徒たちが怪我をした人を慰め、安心させて助ける方法についても取り組むことができます。さらに、学生は意識のない人を安定した側臥位に置く方法を学ぶことができます。

5.2 4.~6.のステップ工程。学年

このステップの焦点は、学生が安全な自転車利用者になることを目指して取り組むことです。既知の地域と未知の地域の両方で、学生が交通渋滞の中で安全に運転する方法を確実に学ぶための取り組みが行われています。

生徒は、さまざまな種類の気を散らすものに触れることによって利益を得ることができます。出発点は、これらの学年の生徒は交通渋滞の中を自分で移動することが多く、特に自転車が好まれる交通手段であるということです。学生は、自転車にどのようなルールが適用されるのか、また、自分自身や他の道路利用者にとって交通渋滞の中での走行にどのようなリスクが伴うのかを学びます。

さらに、この段階の学生は、交通量の少ない地域で交通事故が発生した場合の応急処置を学びます。生徒たちはまた、負傷者の周囲で交通を止め、負傷者を助け、緊急通報する方法も学びます。

交通行動に関する能力目標

学生は交通渋滞の中でも安全に移動できます。

コンピテンス領域のトラフィック動作には、次の4つのスキルおよび知識領域が含まれます。

- **交通規則。**この指導には、生徒たちと協力して自転車にどのようなルールや指示が適用されるかを学ぶことが含まれます。
- **独自のセキュリティ。**この指導には、生徒が交通の妨げとなるものの種類と、それが生徒の安全にどのような影響を与えるかについての知識を得る作業が含まれます。
- **交通中のインタラクション。**授業には、生徒たちと協力する作業も含まれます
他の種類の道路利用者との出会うことに伴うリスクと、それらの利用者との関係で安全に運転する方法について説明します。
- **安全なルート。**この指導には、自転車に乗る人にとってどのルートが最も安全なのかを生徒たちと協力して学ぶことが含まれます。

交通規則

この教育には、自転車に乗る人に適用されるルールや指示に関する作業が含まれます。

学生は、交通における正しい位置、信号、無条件の優先権と方向について学ぶことができます。学生にとって、関連する道路標識と、それが自転車走行にとって何を意味するかについての知識を得ることが重要です。

教育の出発点は交通の中からもよく、生徒は既知の地域と未知の地域の両方で、自転車利用者に対する交通法の規則に従って自転車を運転することを学びます。

独自のセキュリティ

指導には、交通の中に存在する可能性のある注意をそらすものと、それらが生徒の安全にどのような影響を与えるかについての作業が含まれます。生徒は、グループでのサイクリングや、サイクリング中の音楽や携帯電話の使用など、気を散らすものについての知識を得ることができます。学生が交通渋滞に巻き込まれているときに注意を払うことが重要であるという事実に基づいて作業を行うことができます。自転車用ヘルメット、ライト、および明確な色の衣服の使用は、生徒自身の安全にとって不可欠な要素として引き続き強調される可能性があります。

交通中のインタラクション

この教えには、他の道路利用者と出会う際にどのようなリスクがあるかについての作業が含まれます。これに関連して、学生は速度、制動距離、死角、大型車両などの条件を扱うことができます。このようにして、生徒が交通状況がどのように展開するかを予測する方法を学習し、この相互作用の中で安全に移動する方法を学習することに焦点を当てて教育を行うことができます。学生は、自分自身の行動が交通における相互作用に良い意味でも悪い意味でもどのような影響を与える可能性があるかについて取り組むことができます。

安全なルート

この指導には、自転車利用者にとって安全なルートの特徴付けるもの、たとえば、道路システム、大きな交差点ではなく単純な交差点、交通量が制限されているルートなどに関する作業が含まれます。道路工事。作業を通じて、学生は自転車に乗る人としてどのルートが最も安全で、どのルートが特に注意が必要か（自転車道のないルート、大きな信号機やロータリーがあるルートなど）を学ぶことができます。

事故管理のための能力対策

学生は交通事故で怪我をした場合に応急処置を行うことができます。

能力分野の事故管理には、次の4つのスキルおよび知識分野が含まれます。

- 安全を確保します。この指導には、交通量の少ないエリアで負傷者の周囲に安全を確保する方法を学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれます。
- 傷害の評価。この指導には、適切な援助を提供することを目的として、負傷者の状態を評価する方法を学ぶ生徒たちとの取り組みが含まれています。
- 助けを呼びます。指導には、生徒たちが作ることを学ぶ作業が含まれます。
アラームコール。
- 応急処置。指導には、手助けを学ぶ生徒たちとの協働が含まれます。
骨折と頭の怪我。

安全を創造する

この指導には、生徒が他の道路利用者を停止させることで、負傷者の周囲の安全をどのように確保するかについての取り組みが含まれています。生徒たちは警告線についての知識を獲得し、交通量の少ないエリアでソフトな道路利用者とハードな道路利用者の両方を止める方法を学ぶことができます。

傷害の評価

この指導には、負傷者が呼吸しているかどうかを評価する方法を学習することや、生徒が負傷者のために自由な気道を確保する方法を学習することが含まれます。

助けを呼びます

112番通報による助けの呼び方も学習し、事故の名称や場所、事故の内容や程度などを正確に伝えることに取り組む。

応急処置

学生たちは脳震盪の症状に取り組み、負傷者が頭を打った疑いがある場合にどのように反応するかについての知識を学びます。生徒たちは骨折を助ける方法を学ぶことができます。たとえば、骨折した腕用のアームスリングの作り方を学ぶことができます。

5.3 7年生から9年生までのステッププロセス。学年

このステップの焦点は、学生が責任ある道路利用者になるよう努力することです。

私たちは、学生が交通事故において安全かつ責任を持って運転する方法を確実に学べるよう取り組んでいます。

生徒は交通ルールに従って運転し、他の道路利用者を考慮することを学びます。学生は、自分自身と他の道路利用者の交通における行動を洞察して理解し、交通における共同責任を理解することが期待されています。また、重大な交通事故が自分自身や他人に及ぼす可能性のある個人的および社会的影響を理解することも期待されます。

さらに、学生たちは、交通事故で怪我をした場合に救命応急処置を行う方法を学び、事故に遭ったときに役立つように努めます。交通関連の事故。学生たちはまた、負傷者を確保し、損傷と専門家の助けの必要性を評価する方法も学びます。

交通行動に関する能力目標

生徒は交通渋滞の中でも安全かつ責任を持って運転することができます。

コンピテンス領域のトラフィック動作には、次の4つのスキルおよび知識領域が含まれます。

- 交通規則。**この指導には、歩行者、自転車、および原付などの他の特定の種類の道路利用者に対するどのような規則や指示が適用されるかを学習する学習が含まれます。
- 独自のセキュリティ。**教育には、生徒が次の知識を得る作業が含まれます。
交通事故に対する危険因子の影響。
- 責任。**教育には、生徒たちが自分自身や他の人のことについて学ぶ作業が含まれます。
交通上の責任。
- 結果の計算。**教育には、次のことを学ぶ生徒たちとの作業が含まれます。
交通における自分や他人の行動の結果、個人的および社会的結果を予測できる。

交通規則

この指導には、道路利用者として生徒にどのような規則や指示が適用されるかを検討することが含まれます。これには、すべての交通に関する基本的なルール、つまり「思慮深く行動し、交通に注意を払うこと」も含まれます。生徒はまた、年齢制限、運転免許証の規則、速度制限、飲酒運転の制限など、原付運転の規則に関する知識を含む、他人の移動に関する交通規則の知識を得ることができます。

独自のセキュリティ

この指導には、交通における生徒の安全に影響を与える最も重要な危険因子について学ぶ取り組みが含まれています。生徒は、アルコールや薬物の影響下での身体の反応能力、不注意、必要な安全装置なしでスピードを出しすぎて運転する危険性について学ぶことができます。

責任

この指導には、交通渋滞に巻き込まれる際に生徒が自分自身とお互いに対して負う責任を伴う学習が含まれます。生徒たちは自分以外の人に気を配ることを学び、それによって他の道路利用者に対する責任があることを学びます。特に、学生は交通中の最年少に注意を払うことを学び、彼らが年少の子供たちの模範であることを学ぶことができます。

さらに、学生は、グループの力学が学生の行動にどのような影響を与えるかなど、自分の選択を通じて他の道路利用者にも良い方向にも悪い方向にも影響を与える可能性があることを学ぶことができます。学生は危険な行為に対して声を上げる能力を身につけることができます。

結果の計算

この指導には、交通事故における自分や他人の決断や行動が自分や他人の安全に影響を与えることを学ぶ生徒も含まれます。生徒は、交通中の不適切な行動が個人的および社会的にもたらす可能性のある影響を理解することを学ぶことができ、それによって慎重に行動し、自分自身と他人の両方にとって安全な選択をするよう動機付けられます。

事故管理のための能力対策

学生は、交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を行うことができます。

能力分野の事故管理には、次の 4 つのスキルおよび知識分野が含まれます。

- 安全を確保します。指導には、安全を確保することを学ぶ生徒との協力が含まれます。
交通事故で負傷した。
- 傷害の評価。この指導には、適切な援助を提供することを目的として、負傷者の状態を評価する方法を学ぶ生徒たちの取り組みが含まれています。
- 助けを呼びます。教育には、諦めることを学ぶ生徒への取り組みが含まれます。
に関する正しい情報専門家の助けを求めてください。
- 応急処置。この授業には、交通事故で負傷した人に命を救う応急処置を行う方法を生徒たちと協力して学ぶことが含まれています。

安全を創造する

この教えには、交通量の多い場所で負傷者の周囲の安全を確保する際に特に重要な条件に関する作業が含まれています。生徒たちは、信号を正しく使用することで負傷者と介助者の両方の安全をどのように確保できるかを学ぶことができます。さらに、学生は負傷者の周囲の安全を確保するために負傷者の緊急避難を実行する方法を学ぶことができます。

傷害の評価

この教育には、負傷者に救命のための応急処置が必要かどうかを評価する方法を学ぶ取り組みが含まれています。これに関連して、学生は負傷者が呼吸、循環、心臓に問題を抱えているかどうかを評価する方法を学ぶことができます。学生は、生命を脅かす失血やショックを引き起こす可能性のある怪我を認識することも学ぶことができます。

助けを呼びます

指導には、専門のヘルパーとの会話に対処する方法を学ぶ作業が含まれます。ここでは、特に 112 番への緊急通報の際に行われなければならない会話について考えます。この場合、生徒たちは冷静さを保ち、場合によっては負傷者の救助活動を手伝う必要があるかもしれませんが、学生はまた、負傷者の状態が生命を脅かすものではない場合に、どの専門家の助けを求めるべきかを判断する方法を学ぶこともできます。ここでは特に救急部門との連絡が考えられます。

応急処置

この教育には、負傷者が死の危険にさらされた場合にどのような助けが必要かを学ぶ作業が含まれます。ここでは、心肺蘇生法やショック防止の技術を学ぶことができます。学生は、生命を脅かす出血を止める技術も学ぶことができます。

6 横断的なトピックと問題

交通教育の科目には独立した時間数が割り当てられていませんが、学校の必修科目の指導に含める必要があります。この科目の統合は、この科目の特に特徴である学際的な焦点をサポートします。交通教育は、横断的な主題や問題の指導を通じて獲得した知識とスキルを使用および発展させる機会を提供し、それによって分野横断的および共同の指導に参加します。

交通渋滞の中でも安全に運転できることは、すべての科目の指導に外の世界を取り入れるためのツールです。安全に道路を利用することで、博物館訪問など、周辺地域が教育に関連して提供している特典を利用できるようになります。同時に、家の外への旅行は、交通渋滞に対処する明らかな機会でもあります。

- たとえば、幼稚園から3年生までの場合、生徒が運動能力やバランスなどの概念に取り組む場合、交通教育を体育の科目に組み込むことができます。これは、自転車の運転方法を学ぶ必要があることと組み合わせることができます。交通教育は、学校生活全般の移動に有利に組み込むこともできます。
- 4～6の場合。たとえば、生徒が統計、確率、仮説形成などの概念を扱う場合、学年レベルで交通教育を数学と自然/テクノロジーに統合することができます。これは、たとえば、独自の交通手段や交通量を使用した実験と組み合わせることができます。
- 7～9の場合。たとえば、学年レベルで、生徒が社会化や罪悪感や責任を含む倫理などの概念に取り組む場合、交通教育を社会科やキリスト教の知識に組み込むことができます。

7 横断的なテーマ

交通教育の指導は、能力の分野に基づいて組織されており、言語発達、IT、メディア、そして意味のある場合にはイノベーションと起業家精神という 3 つの横断的なテーマを考慮しています。生徒は、横断的なトピックや問題を含む教育によって、可能な限り、獲得した知識とスキルを使用し、発展させる機会を持たなければなりません。

7.1 言語の発達

学校のすべての科目と必修科目は、言語の発達に焦点を当てなければなりません。教育は、すべての教科と科目において、話したり書いたりすることで生徒たちと一緒に説明し、説明し、展開し、議論し、考察するときに、言語を通じて行われます。語彙、概念、主題固有の言語は、専門的な内容について自分を表現し、伝える機会を提供します。

学生が専門用語、概念、主題固有の言語を習得することにより、文化的規範や社会的ルールを微妙な方法で解釈できるようになり、たとえば事故に対処するときなど、特定の状況で言語的に適切に行動できるようになります。。

7.2 ITとメディア

例えば教育にデジタルツールを活用すれば、ITとメディアという横断的なテーマを交通教育に組み込むことができる。科目にデジタルテクノロジーを含めることは、学生の前提条件と、ITとメディアのテーマにおける 4 つの学生の立場における学術的可能性に重点を置いて編成することができます。

- 批判的に調査する学生
- 分析の受け手としての生徒
- 目的を持った創造的なプロデューサーとしての学生
- 責任ある参加者としての学生。

ITとデジタルメディアは、学生の生活、学校、社会において重要な役割を果たしています。

この分野の急速な発展により、デジタル現実を学術コンテンツに変換して適応させるという点で、個々の教師の教訓的な反映が求められ、デジタル開発に伴う機会や課題に対処する生徒のスキルが強化されます。

7.3 イノベーションと起業家精神

イノベーションと起業家精神という横断的なテーマは、アイデア開発、プロセス、製品に焦点を当てています。このテーマは学生の参加を重視しており、学生が調査、実験、創造的に思考し、新しいアイデアに基づいて行動するためのスペースを提供します。イノベーションと起業家精神というテーマのこれらの側面は、可能な限り交通教育に組み込むことができます。

学生が交通行動と事故管理に関する知識を具体的なアイデア、製品、行動に変換し具体化することをサポートすることで、必修科目で革新的な取り組みを行うことができます。したがって、イノベーションと起業家精神における創造的な要素により、学生たちは、自分の知識が交通安全や応急処置の能力にどのように積極的な影響を与えることができるかについて創造的に考えることが求められます。

必修科目にイノベーションと起業家精神を取り上げることで、創造的なプロセスにおける「俳優としての学生」と「プロデューサーとしての学生」の行動と視点の変化に焦点を当てることができます。

交通法規に革新的に取り組む場合、これは小規模な場合も大規模な場合も考慮することができます。革新的な取り組みは、教室、学校、または周辺地域での交通教育に焦点を当てて行うことができます。革新的な考え方をどの程度広範囲に渡って教育に組み込む必要があるか、また、たとえば製品開発や起業家精神のためにどれだけの時間を確保しなければならないかは、個々の教師や学校の組織と、何が意味があり関連性があるかについての評価によって決まります。



指導ガイド

コンテンツ

1 指導ガイドについて	36
<hr/>	
2 生徒たちの多彩な成長	37
2.1 トピックの全体的な考え方	37
2.2 中心的なコンテンツ	38
2.3 子供の自己輸送	38
2.4 多様で応用指向の教育	38
2.5 研修における反省と意思決定	39
<hr/>	
3 教育の組織、実施、評価	40
3.1 全体的な枠組みと指導の責任	40
3.2 リソースパーソンとしての交通連絡教師	40
3.3 教育の全体的な構成	40
3.4 教育に関連した教訓的な選択と考察	41
3.5 内容と方法	41
3.6 教材	42
3.7 評価	43
3.8 交通行動指導の進歩	43
3.9 教育事故管理の進歩	47
<hr/>	
4 能力と内容の関係	49
4.1 交通行動	49
4.2 事故処理	55
<hr/>	
5 一般的なテーマ	58
5.1 移動	58
5.2 指導のサポート	58
5.3 オープンスクール	58
5.4 保護者の協力	59

6 横断的なトピックと問題	60
6.1 独立した主体としての交通	60
6.2 学際的な文脈におけるトラフィック	60
6.3 学問の出発点	61

7つの横断的テーマ	62
7.1 言語の発達	62
7.2 ITとメディア	62
7.3 イノベーションと起業家精神	62

8 生徒の要求に合わせて指導を適応させる	63
8.1 差別化の指導と包括的な学習環境	63

1 指導ガイドについて

指導ガイドは、教師がマネージャーや同僚と協力して実習で行う多くの選択を適切なものにするための情報、サポート、インスピレーションを提供します。

それは、主題の教育に関連するフォルケスコレ法と共通目標の規定について情報を提供し、主題の内容の重要な部分を説明および例示することによってサポートします。

最後に、指導ガイドは、指導の計画、実施、評価において考えられるさまざまな選択肢を説明することによって、その科目における指導の組織化にインスピレーションを与え、サポートします。これらの説明に関連して、教育の組織化におけるさまざまな道筋を視覚化することに貢献します。さまざまな形の教育実践における可能性と限界についての議論を設定することによって。

2 生徒たちの多彩な成長

交通教育の指導と知識とスキルの習得を通じて、学生は多面的な発達を促進することができます。また、指導の方法や枠組みを通じて、学生が積極的に立場を確立し、行動することを可能にする意識を養うことができます。小学校の目的 § 1. 交通教育は、生徒を自立した個人に育てるのに役立つため、自由と公的統治を備えた社会への参加と共同責任を生徒に備えることにも貢献できます。交通教育の主題は人々間の相互作用に基づいており、基本的には交通においてお互いに気を配るという共通の義務に対して、私たち個人がどのようにして決定的な影響を与えることができるかについてのものです。

2.1 トピックの全体的なアイデア

交通法の教育は、現在および将来において安全な道路利用者となるための前提条件をすべての子供たちに提供しなければなりません。

子どもたちは一日中さまざまな場所に滞在し、遊び、動き回ります。家と学校の間、レジャーの行き帰り、友達の間、または授業への旅行中などです。交通渋滞の中でも安全に移動できることは、モビリティが積極的に参加し貢献するための主な前提条件である社会で個人が機能できる機会を生み出します。交通法の指導では、交通は危険なものではなく、自分自身と他の道路利用者の役割を理解し、尊重しながら運転する必要があることを学生に理解させなければなりません。

子どもたちは、歩行者や自転車と同じように、交通の中を自主的に移動します。いわゆるソフトロードユーザーとして。これは、とりわけ、車、バス、トラックなどのハード道路利用者を含む、周囲の交通で移動する他の道路利用者に対して脆弱であることを意味します。

交通事故のほとんどは、道路利用者の行動によって引き起こされます。道路利用者の中には、交通状況において意図的に不適切な選択をする人もいますが、多くの場合、道路利用者は、例えば、道路利用者が多い場合などに、不注意になったり、方向を把握できなかったり、交通状況に対して十分に反応しなかったりするなど、意図せずに間違いを犯します。学生は安全に移動することを学ばなければなりません。道路交通法を遵守し、思いやりを示し、交通に注意してください。

道路利用者の行動は最も重要ですが、適切な交通計画と、反射板、自転車用ヘルメット、ライト、暴動の色などの印象的な色の服装などの個人の安全対策も、交通事故の防止に大きな効果をもたらします。ここでは、生徒がこれらの手段の必要性と使用法を理解することを学ぶことが重要です。

学生は、交通教育を通じて、安全に運転し、人命救助の応急処置を含め、交通中に自分自身や他の人に気を配ることができ、スキルを習得する必要があります。生徒は適切な選択をするのを学ばなければなりません。これには、洞察力、トレーニング、動き回る経験が必要です。渋滞の中で。

2.2 中心的なコンテンツ

交通教育を通じて、生徒は交通とは何か、さまざまな状況で何が求められるのかを徐々に理解していかなければなりません。彼らは歩行者と自転車の基本的な交通ルールを学ばなければなりません。交通渋滞の中で安全に運転するには、交通は他の道路利用者との相互作用の中で発生するものであることを理解することも必要です。これは、子供たちが注意力、責任感、他の道路利用者を読む能力などのスキルを開発する必要があることを意味します。交通教育の重要な部分は、生徒が批判的であり、たとえば責任、行動、グループの力関係など、交通における自分の役割についての立場を取ることで構成されます。

交通教育の一環として、交通事故が発生した場合に生徒が救助する方法を学ぶことが挙げられます。学生は、自分自身と他人を助ける必要性を認識し、事故を経験または目撃した場合に適切に反応して行動できる知識とスキルを習得する必要があります。出発点は、学生がケアの提供、安全の確保、状況の概要を把握し、年齢レベルに応じて可能な範囲で手助けすることを学ぶことができることです。

2.3 自己輸送の子供たち

交通教育の内容は、生徒が自力で交通手段を使えるようになることを目的としており、長期的には歩行者、自転車、そして一般の道路利用者として安全に移動できるようにすることが重要です。

したがって、教育では、年齢に応じた前向きな経験や、活性化された実践的な活動に重点を置くことができます。目的は、学生が交通渋滞の中で車を運転し、自分自身が対処できることと、他の道路利用者の行動との関係で何を期待しなければならないかについて現実的なイメージを得ることです。

生徒たちは、交通渋滞の中でできる限り自分の身を守る方法と、危険な状況に身を置くことを避ける方法に取り組みなければなりません。また、他人を信頼するだけでは十分ではないこと、交通の権利を守ってはいけないことも学ばなければなりません。彼らは先見の明を持ち、自ら予防策を講じ、適切に行動することを学ばなければなりません。

交通を教えることで、子どもたちは学校への行き帰りなど、自分で移動できるようになります。自己交通手段であることにより、自由が得られ、すべての人に共通の交通安全に積極的に貢献する機会が得られます。これは、生徒の健康と残りの授業への集中力にも良い影響を与えます。

2.4 応用指向の多様な教育

私たちは皆、毎日交通渋滞に巻き込まれています。そのため、交通教育の出発点を現実世界や生徒たちが日常生活で知っている状況から出発させるのは明らかです。ほとんどの生徒は、日常生活の重要な部分である通学途中の課題や出来事について話すことができ、教師はそれを出発点として指導を行うことができます。同様に、子供たちは自由時間にバス、電車、スクーター、スケートボード、ローラースケートなどのさまざまな交通手段を使用することが多く、これらを教育の一部として含めることができます。

交通教育という主題では、理論的知識と組み合わせた具体的で実践的な活動を教育の出発点とすることができます。生徒たちは自分の体で物事をテストすることで、自分たちの感覚をさらに働かせることができます。多くの子どもにとって、口頭での説明や指導の意味を理解するのは難しいため、できるだけ具体的で有益な指導が重要です。生徒たちは車の流れの中に出て、地元のコンクリート交差点を通過する方法を学ぶことができます。あるいは、シミュレーションやロールプレイングを使って事故の概要を把握し、助けを呼ぶ方法を学び、人を安定した側臥位に置くテストをし、生命の兆候を確認し、出血を止める練習をしなければなりません。言い換えれば、理論を実際にテストし、実際の経験に基づいて理論を立てることが許可されなければなりません。

生徒は、地元の環境や地元での実際の行動を調査する調査的なアプローチに基づいて取り組むこともできます。その学校の生徒はどうやって学校に通っていますか？自転車用ヘルメットを使用しているサイクリストは何人いますか？ここでは、生徒にデジタル支援や関連アプリを使用させるのが当然でしょう。

2.5 研修での振り返りと意思決定

中等教育では、指導が具体的で生徒の日常生活に近いものであることも重要です。ただし、近い将来、原付や自動車の運転免許を取得する機会が与えられるため、学生たちに原付や自動車に関連するリスクについての洞察を与えることも重要かもしれません。ここでの教育は、必ずしも生徒自身の日常生活から取られたものではないが、それでも現実であるシナリオに基づいて行うことができます。このために、外部のプレゼンターやビデオベースの資料を有利に使用できます。

指導には、生徒自身の現実に関連し、生徒自身のライフスタイルと責任について熟考する必要がある状況が含まれていなければなりません。たとえば、学生が地元のライトバスケットで統計処理のために観察とカウントを行った場合、分析、評価、個人的な意思決定のための個人的な経験と事実の根拠が存在します。次回この十字架を通過しなければならないのですか？

3 教育の組織、実施、評価

3.1 全体的な枠組みと指導の責任

全体として、交通教育がすべての学年レベルで確実に教えられるようにするのは校長の責任です。これは、学校の交通連絡担当の教師、教育委員会、および学校の他のリソース担当者と協力して行うことができます。教育委員会は学校の業務の原則を定めることができ、したがって交通教育の組織に関する規則を定めることができます。教育委員会は、学校の交通方針について合意することもできます。トラフィック ポリシーでは、特に次のようなことができます。学校周辺の交通ルールと交通教育の計画を規定し、教師組織のガイドラインを形成します。交通教育が指導計画の一部として確実に組み込まれるようにするのは各クラスの教師であり、指導の組織化と実施にも責任があります。運転レッスンは、全体的な年間計画の一部として有利に実施できます。

3.2 リソースパーソンとしての交通連絡教師

学校長は交通連絡教師として教師を任命することができます。彼の仕事は、学校の他の専門家に次の点でアドバイスし、指導することかもしれません。交通教育、交通連絡教師の重要な仕事は、交通教育をどの科目に組み込むことができるかを鼓舞し、指導することです。学校に学校パトロールがある場合、その学校の交通連絡教師が訓練と監督を担当することもあります。これ。

教具や指導補助具の知識を伝え、指導にどう活用できるかアドバイスするのも交通連絡教師の役割かもしれません。これは学校の教育学習センターと協力して行うことができます。交通連絡担当の教師には、その地域の新しい教材、対策、規制について最新の情報を入手する責任があるかもしれません。教師は、安全な交通や応急処置を扱うさまざまな機関からアドバイスや指導を受けることができます。

3.3 教育の全体的な構成

交通教育は幼稚園から中学3年生までの必修科目です。交通教育をいつ、どのような状況で教育に含めなければならないかについての規則はありませんが、必修科目および可能な場合には学際的なコースで教育の主題として含める必要があります。

交通教育を確実に実施するために、各チームが連携して交通教育に取り組むことができるという利点があります。チームミーティングでは、チームの年間サイクルに指導を組み込むために利用できるオプションを検討できます。場合によっては、学生が交通渋滞に対処する集中日や科目週を設定する必要があるかもしれません。もう1つのオプションは、チームが交通教育をスポーツ、自然/テクノロジー、デンマーク語などの特定の主題の下に置くことに同意し、その後、個々の主題チームが教育を組織することです。学校に交通連絡教師がいる場合、担当チームはその教師に指導を求めることができます。これにより、関連資料の検索に伴う作業が軽減されます。

そして、交通連絡教師は、多くの場合、具体的な資料を参照し、教育の実際の実施に関してアドバイスや指導を行うことができます。

交通の授業は学年を通じて定期的に受けることができ、交通事故の統計によれば、交通事故で負傷するのは主に年長の学童と若者であることが強調されているため、最年長のクラスで集中力を維持することが重要です。

個々の学校は、学校のコースの特定の時間に特定の活動を決定できます。たとえば、学校の開始時に歩行テスト、中間段階で自転車テスト、そして学校の終わりに交通事故の犠牲者を訪問するなどです。それは個々の学校で良い伝統を生み出すことができます。これは、個々のチームが交通教育を組織する必要がある場合のサポートにもなります。

これらの活動は、必ずしも独立したものとして見なす必要はなく、教科との自然な文脈の中で一般教育の一部を形成するコースで補うことができるのと同じように、教育コースの統合された部分として機能することができます。

交通教育は生徒に関連しており、生徒の日常生活に基づいたものでなければなりません。活動が生徒のそれぞれの段階でのニーズや能力に合わせて調整されることが重要であると同様に、理論と実践を教育において結び付けることができます。交通教育では、学生が交通状況での運転経験を積み、安全に運転するためにどのような感覚や運動能力が必要かを理解する機会が得られます。交通教育は、生徒が安全で自立した道路利用者になるよう努めなければなりません。

3.4 教育に関連した教訓的な選択と考察

内容、方法、教材、評価に関する指導上の選択は、個々の教師または生徒を知っているチームに委ねられます。教師は次のことを考慮できます。

- 交通渋滞の際に生徒に何が期待されますか？
- 目標まであとどれくらいですか？
- 生徒が目標を達成する前に何をする必要がありますか？
- 生徒の学習を最もサポートするコンテンツはどれですか？
- どの方法が生徒の学習をサポートしますか？
- 私の教育に使用できる教材はどれですか？
- 生徒が成長しているかどうかを確認するにはどうすればよいですか？

3.5 内容と方法

指導は、さまざまな学年レベルの生徒の身体的および認知的能力に適応させることができます。子どもたちは、独立した責任ある道路利用者として安全に運転することを徐々に学ぶことができ、子どもたちが何が見え、何ができるかという観点から、学校のコース全体を通じて段階的に指導を行うことができます。たとえば、最も小さな生徒は、他の道路利用者の立場に立つことが難しいと感じています。そのため、教育は主に彼らに向けられ、交通の中で安全に運転するために何ができるかを教える必要があります。学生がより成熟し、複雑な状況を見て分析する能力を獲得するにつれて、他の道路利用者の視点も教育の重要な部分になります。

学生は、自分自身が交通における社会的相互作用の積極的な参加者であること、また、他の人の選択が自分に影響を与えるのと同じように、自分の選択が他の人にも影響を与える可能性があることを理解することができます。最年少のクラスでは交通ルールや具体的な運転スキルに焦点を当てた指導が行われますが、中級レベルや最年長のクラスでは、生徒自身と他人に対する責任が重視される場合があります。

事故管理を教える際、最年少の生徒にとっての出発点は、交通運転や余暇活動に関連して発生する日常の小さな事故の場合に助け、ケアする方法を学ぶことです。たとえば、助けを呼ぶこと、大人を連れてくること、負傷者を慰めることなどを学ぶことができます。生徒が負傷者や事故の状況に関してより直接的に行動できることが期待できるのは、高学年になってからです。

最年少のクラスでは、動きや遊びを指導に組み込むことが有利です。

生徒が基本的なルールを学ばなければならないときは、校庭で行うと有利です。そこで生徒に道を描かせて、それを移動させることができます。交通教育と応急処置をリレーに組み込むことができます。たとえば、学生が交通の中で遭遇する標識を理解できるようになります。また、学生が特定の状況で何をしたいかを答える必要があるゲームを作成することもできます。たとえば、信号のない場所で道路を渡らなければならないときや、友人が自転車で転倒しているのを見たときなどです。

最も古いクラスでは、授業は主に生徒間の対話に基づいて行われます。

ほとんどの学生は交通の中で安全でないことを経験しています。この不安を表明することで、それを合法化し、それを克服するために何ができるかを共同で取り組むことができます。学生たちは年齢が上がるにつれて、これまで交通の分野で服従してきた規範に挑戦し始めます。自転車のヘルメットを棚に置いたり、スピードが楽しくなったりするのかもしれない。教師として、この展開を非難するのではなく、興味を持つことができます。生徒の態度や経験について尋ねることで、生徒が不適切な選択をしたために非難されるのではなく、安全な場で生徒の態度を試される機会を得ることができる場を作り出すことができます。若くして交通事故に遭うことに伴う課題について話すことで、正しいことをしたいと願う生徒に話す時間を与えることもできます。多くの場合、これが多数派ですが、最年長学年になると、グループの力関係が常識よりも重要になることがあります。学生として、本当は自転車用のヘルメットをかぶったままにしたいのに、みんなが持っているからといって棚にしまっている人がいると聞いたなら、再びヘルメットを見つけやすくなるかもしれません。

3.6 教材

教材は、教育内容に対する対話的かつ調査的なアプローチをサポートできます。その結果、作業プロセス中の選択と正当化が優先される、内省指向で部分的に生徒主導の指導が行われる可能性があります。この構造により、時間、ペース、作業方法の面で一定の差別化が可能になります。

ある状況から別の状況に学習を移したり、教材から具体的な状況に学習を移したりするには、抽象化する能力が必要です。したがって、教材は、内容に関してカリキュラムの要件を満たしているかどうかによって評価されますが、交通における生徒の動きや応急処置に関連付けることができる、活性化された実践的な教育を提供するかどうかにも含まれる場合があります。できる必要があるかもしれません。

デジタル教材を使用すると、ビデオ、画像、音声の形で視覚効果と聴覚効果を加えることができます。デジタル マップを使用すると、生徒の現実を教室に直接移すことができ、理論的な指導の一部を生徒の地域に基づいて行うことができます。

交通教育には特に身体的要素を含めることができ、教材が身体的および運動的な練習に焦点を当てていることが重要です。教材を選ぶ際には、ルールや具体的なスキルの学習といった交通教育だけに焦点を当てていないことが重要です。この科目の重要な部分は、生徒のリスクに対する理解を深め、潜在的に危険な交通状況を分析して行動できるようにすることです。これは特に最年長の生徒に当てはまります。そのため、生徒たちは交通状況の中で批判的な反省を行うことができます。

教材は、生徒に関連する問題に基づいていることが有利である。たとえば、「どうすれば安全に学校に通えるでしょうか?」などです。パーティーから安全に帰宅するにはどうすればよいですか?

3.7 評価

指導の評価には、生徒が学習と発達についてのフィードバックを受け取ることと、教師が指導の質についてのフィードバックを受け取ることの両方が含まれます。

初期および中期の段階では、実践的な側面が教育の評価を決定します。運転教習は渋滞の中で運転できるようになるためのものです。これは、とりわけ、実践的な能力であるため、教室外の現実世界で評価することができます。

トレーニングでは、教師が生徒の反省点を観察する対話に基づいて評価を行うことができます。交通問題に関する選択と意思決定。

良い評価には、学生が積極的に参加し、どうすれば改善できるかを意識することが含まれます。生徒にはフィードバックが必要であり、教師はその評価がより良い道路利用者になろうとする生徒のモチベーションにどのような影響を与えるかを考慮する必要があります。

3.8 交通行動指導の進歩

能力領域の交通行動には、安全で責任ある道路利用者になるために個々の学生が獲得しなければならない能力が含まれます。最年少学年では、主に子供自身の安全行動が重視され、最年長学年では、他の道路利用者との関係や、交通における自分と他人の安全に対する責任を含むように焦点が拡大されます。

幼稚園から小学3年生まで

子どもが交通渋滞の中を一人で移動し始めるとき、ほとんどの場合、歩行者として行動します。したがって、最初の段階での指導では主にこの領域に重点を置く必要があります。たとえば、幼稚園のクラスで歩行者になることに重点を置いた指導コースでは、子供たちが毎日移動する周囲の交通と密接な関係がなければなりません。

交通教育のコースを子供たちに歩行テストを受けさせて終了し、特定のルートでの交通ルールに従って歩くことについて学んだことを披露するのは良い考えかもしれませんが、歩行テストの実施は指導を評価する方法であり、個々の生徒が歩行者として何ができるか、何ができないかを知ることができます。これは、将来のコースで差別化を教えるための背景を形成する可能性があります。

2年生の終わり頃に3年生の初めに、実際の自転車トレーニングと交通に関する指導が始まります。

生徒は、どこで自転車を運転するか、サメの歯で停止するか、交差点やロータリーでどのように行動するか、正しい信号は何かなど、自転車に乗る人のための基本的な道路ルールを学ぶことができます。子どもたちはまだ交通渋滞の中を一人で自転車で走るのに必要な概要を身につけていないため、実践的な訓練は校庭などの閉鎖された場所で行うことができます。

生徒が自転車でバランスを保つことを学んだとしても、操縦スキルを訓練することが依然として重要です。安全に自転車に乗るには、交通に注意を払うエネルギーが必要です。したがって、生徒がバランスを崩さずに後ろや横を振り返ることができ、もう一方の手で合図をする必要があるため、片手だけで安全に運転できることが重要です。たとえば、トレーニングコースは、小さな自転車運転テストで終了することができます。このテストでは、学生が発進と停止、バランス、片手での運転、方向の制御を制御できるかどうかをテストします。

振り返りのための質問

- 交通渋滞の中で安全に徒歩で移動する方法を生徒に確実に学ばせるにはどうすればよいでしょうか？
- 教える際に地域を最大限に活用するにはどうすればよいですか？
- 生徒が安全に自転車に乗れるようにするにはどうすればよいでしょうか？
- 閉鎖されたエリアで生徒のサイクリングスキルをテストするにはどうすればよいですか？

4位～6位学年

生徒が10～12歳になるまでに、ほとんどの生徒は交通に関する豊富な経験を積んでおり、自分で家から遠くに移動することもよくあります。近隣地域の交通に関する知識だけでは、もはや対応できません。知らない場所でも安全に移動できる知識と技術が必要です。学生は、すでに持っている経験に取り組むことで、この知識とスキルを最大限に習得できます。学生たちはすでにある程度有能な道路利用者であり、これを基礎にしない理由はないということ覚えておくことが重要です。生徒を有能だと考えることで、生徒がもっと学ぼうとする勇気を支え、さらに教えるためのより良い基盤が得られます。

子どもたちは依然として歩行者として、あるいはスクーターなどに乗って移動することもよくあります。指導では依然として歩行者であることを扱うべきですが、主に自転車に関連した指導に重点を置くことができます。多くの子供たちは自転車を持っており、子供たちはサイクリングから多くの楽しみを得ることができます。多くの子供たちが交通手段として自転車に依存しており、多くの子供たちは、ようやく自分で移動できるようになったときに大きな喜びを感じています。学校はこの喜びを維持するのを助けることができますが、同時に、学校は、次のような可能性がある生徒たちを自転車に乗せるのを助けることができます。サイクリングが日常生活の不可欠な部分になっていない。これは、たとえば、毎日の教育、スポーツの授業、または修学旅行に自転車を組み込むことで実現できます。

さらに、この教示には、自己輸送の他の側面が含まれる場合があります。たとえば、電車やバスの輸送に関連した善良で安全な行動を通じてです。

生徒たちは、交通渋滞の中の自転車走行は特別な予防措置と特別なスキルを必要とする独立した活動であることを学ばなければなりません。それはただできることや、やることではありません。中級レベルの生徒は、かなりの程度、他人の立場に立って物事や交通状況を他人の視点から見ることができます。これは、前の段階よりもはるかに、複雑な状況を概観し、状況がどのように展開するかを予測する機会があることを意味します。生徒たちは、右側通行と無条件通行権の規則、方向転換や方向転換の際の方向指示に従って運転できるようになり、正しい合図の練習もできるようになりました。

この教えは、渋滞中に何が起きるかについて生徒の注意を高めるのに役立ちます。言い換えれば、彼らは先見の明を持つことを訓練することができます。これは、他の道路利用者が何をするかを予測する必要があることを意味します。しかし、自分の行動が他の道路利用者にどのような影響を与えるか、あるいはその可能性があるかを予測しようとすることもできます。彼らは自転車に乗りながら、自分が参加しているインタラクションの中で自分自身を想像することができます。したがって、自転車を操作でき、交通ルールを知っているだけでは十分ではありません。自転車の注意力の欠如、または注意力の欠如が、多くの自転車事故の原因となっています。不注意は、自転車に乗っている人が道路を見ていない、方向を十分に確認していない、他の道路利用者に注意を払っていない、音楽を聴いている、テキストメッセージを読んでいないなど、いくつかの原因によって引き起こされる可能性があります。これに関連して、グループで旅行する場合の自転車の乗り方について話し合うことも重要であり、これには個人の特別な注意が必要です。小規模な実験を行うことができ、学生は実際に自転車に乗って自分のスキルをテストすることができます。これは校庭などの密閉された場所で行う必要があります。学生が送信している間、操縦用トラックを運転させることができます。

テキストメッセージを送信すれば、重いバッグをハンドルバーに掛けて運転させることができます。これらのトライアルは、学生がサイクリングに全力で集中するトライアルと比較して、それぞれの違いを経験できるようにする必要があります。

自転車の法的に義務付けられた装備と自転車用ヘルメットの使用には注意を払うことができます。特に、統計的には多くの学生が12歳になると自転車用ヘルメットを片付けてしまうからです。自転車用ヘルメットは、命を守り、運転を助ける非常にシンプルかつ重要な安全装置であるサイクリストのエアバッグとして考慮する必要があります。同様に、この教示は反射ベストや明るい色の衣服の使用にも対応しており、これは交通の中で自転車に乗っている人を目立つようにするのに役立ち、したがって交通安全の観点から予防効果があります。自転車用ヘルメットを扱うときは、自転車用ヘルメットがどれくらいの耐久性があるかを示すことをお勧めします。生徒たちに古い自転車のヘルメットを壊してもらい、ヘルメットの構造を観察させたり、キャベツの頭が入った自転車のヘルメットを1階または2階から投げて、キャベツの頭がどうなるかを観察させたりします。次に、比較のために、自転車のヘルメットなしで同じキャベツの頭を捨てることができます。卵にフィットするミニヘルメットを使用すると、同じ理解が得られます。

できればさまざまな焦点を当てて、継続的にサイクリングに取り組むことをお勧めします。

たとえば、学生は、自転車の可能性と限界だけでなく、サイクリストとしての自分自身の可能性と限界もテストすることに取り組むことができます。これには、たとえば、さまざまな路面でのバイクの走行特性とブレーキ特性をテストしたり、荷物を持った状態と荷物を持たない状態で走行したりすることが考えられます。自転車に乗る人にとって安全なルートを生徒に特定させることもできます。どのような交通対策によってルートをより安全にできるのでしょうか？自転車に乗るのに最も安全な交通渋滞の場所はどこですか？ここで学生は、経路システム、さまざまな交通量の道路、交差点、ロータリーを扱います。生徒に、通学途中で最も安全または最も危険だと感じる場所の写真を撮るように依頼できます。各生徒が写真を持ってくと、地元エリアの概要地図を作成でき、それが安全なルートについての会話の出発点になります。

サイクリングコースは、6年生のサイクリングテストで終了します。このテストでは、サイクリストとしての知識とスキルがテストされます。警察と連携して実施することもでき、指導の評価としても活用できます。

振り返りのための質問

- 生徒の動きを学ぶ能力を最もサポートする方法はどれですか
自転車での交通安全は？
- 生徒に自転車の可能性と限界を理解させるにはどうすればよいですか？
- 気を散らすものに対する生徒の注意を訓練するレッスンをどのように組織すればよいでしょうか？
- 生徒が交通状況を読めるようにするにはどうすればよいですか？
- すべての生徒が自転車に乗れるわけではないという事実に対処すればよいですか？

7.-9.学年

最年長学年では、交通行動の指導をより広い視野で見なければなりません。これらは義務教育の最終年であり、交通規制やリスクを考慮して、十代の若者が運転免許を取得する前に学ばなければならないすべてのことがここに含まれています。

中等学校では、生徒をプロジェクトに参加させることによって、プロジェクト指向または教科指向で教育を組織することができます。リスクを取ることと無敵であるという生徒の経験に挑戦する主題へのアプローチを持つことは良い考えかもしれません。上級生は交通渋滞の中で移動することが危険であることを認識していますが、それを個人的に認識していることはほとんどありません。

彼らは、自転車や原付バイクを自分でコントロールできるので、無敵であると感じます。同じ無敵性は、たとえば安全上の指示の遵守など、バスや電車の乗客としての行動にも当てはまります。

一部の学生は事故の結果と損害について個人的な知識を持っているかもしれませんが、ほとんどの学生にとってそれは非常に抽象的であるため、対処するのが困難です。

したがって、教室に現実をもたらすことができる個人的なアカウントは、最も古いクラスでの指導の絶対的な中心となります。これは、ゲスト教師、ドキュメンタリー、レポート、そして場合によっては、地元の事故に関する知識。出発点が具体的な出来事である場合、教師は細心の注意を払い、敬意を示すことが重要です。これらの実生活の説明は、個人的および社会的な性質の交通における不適切な行動の起こり得る結果について学生に有益な洞察を与えることができます。私は夢に見たものになれるでしょうか？他人に依存するとはどういう意味ですか？これは友人や家族との生活にとって何を意味するのでしょうか？現実との対峙は生徒たちの内省を引き起こし、行動、ライフスタイル、責任について議論する扉を開く可能性があります。

生徒の振り返りが始まったら、生徒が調査、集計、議論、インタビュー、読書、結論、処理ができるようにするための作業を続けることができます。このようにして、学生は交通ルールについての洞察と理解を得ることができます。また、自らの選択とオプトアウトを通じて、交通における自分自身と他人の安全に対して大きな責任があることを理解することができます。

生徒は自らの立場を確立し、責任を持つよう奨励されなければなりません。責任感、他の人の考え方、感じ方、行動の仕方を理解できるかどうかと関係があります。

したがって、視点を変えて実験して、生徒が物事を別の側面から見るようにすることは良い考えです。

学生が事故の発生をできるだけ回避し、いかなる場合でもリスクを最小限に抑えるための知識とスキルを習得することが重要です。これに関連して、生徒は、不注意、アルコールやその他の薬物、スピードなど、交通事故の原因となるものに対処することができます。

同様に、学生が意欲、自信、そして特定のリスク行動に対して声を上げるための具体的なツールを獲得することが重要です。

振り返りのための質問

- 生徒が交通状況で適切な選択をできるようにするにはどうすればよいのでしょうか？
- 交通事故が最も危険な 10 年間にに向けて生徒に最善の準備をさせるにはどうすればよいのでしょうか？
- 生徒が自分自身に責任を持つことを学べるようにするにはどうすればよいですか？

自分自身や他の人が渋滞に巻き込まれていませんか？

3.9 事故管理教育の進歩

事故処理能力領域には、交通事故が発生した場合に自分自身や他人を助けるために個々の学生が習得しなければならない能力が含まれます。大人の慰めや助けが得られることから、高学年の怪我や事故の状況に対してより直接的に行動できるようにするまで、徐々にスキルを高めていくことができます。

事故管理の中心となるのは、応急処置の4つの主要なポイントに含まれる多くの技術と行動であり、実践する必要があります。学生には多くのスキルが求められており、知識やスキルを習得するための学生のさまざまな方法に挑戦する機会が十分にあります。

幼稚園から小学3年生まで

最年少学年では、子どもたちの身近な環境や、学校の近く（校庭や学校近くの通路など）で起こり得る交通事故の種類に基づいて指導することができます。怪我をした人がさらに怪我をしないように、まず安全をどう作るかに取り組むことができます。これは、負傷者から自転車を降ろすことによって行われる可能性があります。次のステップは、患者が目覚めているかどうかを確認し、どこが痛いのか尋ね、出血しているかどうかを確認することです。負傷者に意識がない場合、学生は負傷者を安定した側臥位に置く方法を学ばなければなりません。

生徒たちは、自分自身が落ち着いていること、なだめるよう話したり、手を握ったり慰めたりして世話をすることが大きな意味があることを学ぶことができます。また、怪我をした人が凍りつかないように、ジャケットなどで温めるのが良いことも知っておくべきです。最後に、学生は大人に助けを求めなければならないこと、そして事故が深刻な場合はおそらく112番に助けを求めなければならないことを知っておく必要があります。

自分自身が怪我をしたときに助けを求めた経験について生徒たちに話すとよいでしょう。交通渋滞中である必要はありませんが、遊び場やスポーツ中に転んだときなどが考えられます。誰が助けてくれたの？彼らはどのように助けられたのでしょうか？彼らが受けた支援で最も良かったことは何ですか？そして最も重要なことは何でしたか？また、すでに他の人を助けたことがあり、自分が何をしたのか、なぜそうしたのかを説明できる生徒もいるかもしれません。生徒自身の経験から始めることで、さらなる指導のための共通の基盤が得られます。

振り返りのための質問

- 教えを生徒の日常生活に最もよく結びつけるにはどうすればよいでしょうか？
- 事故が起きた場合に冷静さを保つように生徒に教えるにはどうすればよいでしょうか？

4位～6位学年

生徒が10～12歳になると、身体的にも成熟して、次の点でさらに支援できるようになります。交通事故。彼らの多くは自転車で移動しており、例えば自転車事故に基づいて指導することもできます。生徒たちは今後、他の交通量もある場所で事故現場を確保する方法を学ぶことができます。たとえば、他の道路利用者が負傷者にぶつかってさらなる損害を引き起こすことを防ぐために、交通を停止する必要があるかどうかを判断できます。彼らは警告三角マークを提示され、必要に応じて具体的に交通を止める方法を学ぶことができます。

学生は引き続き、負傷者が呼吸しているかどうかを確認する方法と、負傷者に自由な気道を確保する方法に取り組むことができます。生徒たちは助けを求めるとき、112番に電話し、名前、事故が起こった場所、何が起こったのかを説明することを学びます。生徒は、自分自身を含め、携帯電話からいつでも緊急電話をかけることができることを知る必要があります。

電話機に SIM カードが入っていない場合、またはロックが解除されていない場合。さらに、学生は頭部外傷への対処方法を学ぶことができます。脳震盪のリスクがある可能性があるため、脳震盪とは何か、どのように治療すべきか、そして特に適切な治療がなぜ重要なかを生徒に理解してもらうよう努めることができます。

ほとんどの学生は怪我をしており、助けが必要な状況にあります。大きな怪我である必要はありません。生徒たち自身の経験を出発点として考えてください。なぜ事故が起きたのでしょうか？誰がどのように助けてくれましたか？大丈夫かどうかを尋ねたり、112番に電話したり、交通を止めたりすることまで、あらゆることを手助けしてくれる生徒たちと話してください。生徒たち自身の経験を出発点として、彼ら自身がどのような助けを必要としていたのかについて話します。

生徒たち自身の経験についての会話は、実際に取り組むことができる小さなケースにつながる可能性があります。

振り返りのための質問

- 生徒ができるようになることを学ぶのに最も効果的な方法はどれですか
緊急通報？
- 生徒が確実に応急処置を行えるようにするにはどうすればよいですか？
- 応急処置を自分で教える前に、どのようなことを考慮する必要がありますか？

7位～9位クラス

最古のクラスでは、生徒は交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を学ばなければなりません。教育は具体的な事件や状況の説明に基づいて行うことができ、それを通じて生徒は知識、スキル、そして特に交通事故を助ける勇気を身につける必要があります。ロールプレイ、実践的な演習、およびさまざまなシナリオが教育の中心的な要素であり、これらの要素は、生徒が適切なスキルを習得し、生徒がその分野で探求できるように構成することができます。

学習面では、生徒は事故周辺の交通を部分的に止め、必要に応じて負傷者の緊急避難を行うことにより、事故周辺の安全を確保する方法を学ぶことができます。これらの段階では、学生は数人の死傷者がいる状況を評価する方法を学ぶことができると期待できます。学生は、事故の範囲と重大度を評価できる知識とツールを持っていないべきではありません。その事故は生命を脅かすものですか？たとえば、気道が確保されているかどうか、正常な呼吸があるかどうか、血液循環に問題がないかどうかを確認する方法を学ばなければなりません。後者は、ショックの典型的な兆候である、人が青ざめたり、冷や汗をかいたりするかどうかを調べることによって調査されます。これにより、特に次のことが可能になります。助けを求めるときに使用すると、どのような助けが必要かを判断し、緊急センターや緊急治療室の医療スタッフなどに詳細な説明を行うことができます。最後に、生徒は負傷者が死の危険にさらされた場合にどのような助けが必要かを学ぶことができます。学生たちは、心肺蘇生の技術と大出血の場合の対処法をテストすることができます。

最年長のクラスで応急処置の指導を集中して行うことができるため、生徒は応急処置の明確なコースを取得する経験を積みます。救命救急には多くのサブ要素があり、トレーニングは散発的すぎない場合に最も意味があります。に関する集中講座を開催できます。例: エクササイズの日やトピックの週。

振り返りのための質問

- 生徒は事故の状況で全体像を把握する方法を最もよく学ぶにはどうすればよいでしょうか？
- 生徒が救命救急法を学ぶのに最も効果的な方法はどれですか？
- 生徒が勇気を失い、事故が起きたときに他の人を助けたいという欲求を失わずに、どうすれば真剣に指導に取り組めるでしょうか。

4 能力とコンテンツの関係

交通指導を行う際には、理論と実践を組み合わせることが不可欠です。教育は 20-60-20 のテンプレートに従って分割できます。時間の 20 パーセントは枠組み、導入、新しい知識に費やされ、時間の 60 パーセントは理論の実践に費やされ、残りの時間の 20 パーセントは収集と評価に費やされます。

この章では、交通教育を通じて学生に期待される能力を検討し、その後、内容の具体的な提案を行います。

4.1 交通行動

交通行動を教える場合、その教えが現実に根ざしたものであることが重要です。生徒たちは車の渋滞に巻き込まれることで大きな恩恵を受け、何が起きているのかを見て、聞いて、感じることができます。指導の内容は、生徒の体格、年齢、認知能力を反映する必要があります。

学校教育では、生徒が地域で歩くことを学ぶことに重点を置く必要があります。

指導は生徒自身の交通渋滞での運転経験に基づいて行うことができ、生徒がそれを自分に関連したものとして経験できるレベルで行われなければなりません。

中間段階では、安全なサイクリストになることに重点を置く必要があります。中級レベルの学生のほとんどは、物事をより大きな視点で見ることができるため、内容はそれを反映する必要があります。これ。

トレーニングでは、原付と自動車の両方の運転免許証が必要となる可能性がある今後数年間にに向けて教育を行うのと同じように、責任ある道路利用者になることを目標とすべきである。

生徒は、なぜこれに基づいて授業内容を設定する必要があるのかを考え、視野に入れることができます。

交通規則

導入部では、学生はどのルールと指示が歩行者に適用されるかを検討できます。彼らはどこへ行かなければなりませんか？道路を安全に渡るにはどうすればいいでしょうか？渋滞に巻き込まれたときに重要なことは何ですか？授業時間中や登下校時に安全に歩けるように重点を置き、生徒の身近な環境に基づいた指導が可能です。

スクーターやローラースケートで移動する場合、それらも歩行者としてカウントされることを生徒に認識させることができます。これは、歩道を歩き、歩行者用のルールに従わなければならないことを意味します。

中級レベルでは、学生はどのルールや指示が自転車に適用されるかを検討できます。生徒は、たとえば、交通における正しい位置決め、信号、無条件の優先権と方向について学ぶことができます。同様に、学生は関連する道路標識と、それが自転車走行にとって何を意味するかについての知識を得ることができます。

既知の地域と未知の地域の両方で、自転車利用者向けの道路交通法の規則に従って自転車で走行することを学生が学べるように、指導を編成することができます。

トレーニングでは、学生は道路利用者としてどのようなルールや指示が適用されるのかを学ぶことができます。これには、すべての交通に関する基本的なルール「思いやりを持って行動し、交通に注意を払う」も含まれます。生徒はまた、年齢制限、運転免許証の規則、速度制限、飲酒運転の制限など、原付運転の規則に関する知識を含む、他人の移動に関する交通規則の知識を得ることができます。

具体的な指導内容の提案

- 該当する場合は、関連する交通ルールを確認します。クイズや交換ゲームを通して、サインリレーや黒板のレビュー。
- 生徒たちを車の多いところに連れ出し、道路を横断する練習をします。次の点に注意してください。標識などを読む
- 交通ルールに関するチップクーポンを作成します。
- 生徒に最も重要だと思う交通規則を選択させ、その理由を説明させます。

独自のセキュリティ

トレーニング中、学生は安全装置と交通状況の可視性を扱うことができます。

たとえば、自転車のヘルメット、ライト、反射板、明るい色の衣服、安全ベルト、および交通安全に関連したこの装備の効果に基づいて指導することができます。時間帯と季節が安全にどのような影響を与えるか、またこれに関連してどのような安全装置を使用することが重要であるかについて作業を行うことができます。この教育は、学生が交通の中で目立つことがいかに重要であるか、そして自転車用ヘルメットを使用することで重大な頭部損傷から身を守る方法を学ぶことにつながる可能性があります。

中級レベルでは、学生は交通の中でどのような気が散る可能性があるのか、またそれらが学生の安全にどのような影響を与えるのかを学ぶことができます。学生は、例えば、群衆の中での運転や、サイクリング中の音楽や携帯電話の使用に関連する注意散漫要因に関する知識を学びます。目標は、交通渋滞の中で運転するときに注意を払うことが重要であることを生徒が学ぶことです。自転車用ヘルメット、ライト、明るい色の服装の使用は、生徒自身の安全にとって不可欠な要素として引き続き強調される可能性があります。

このトレーニングでは、学生は交通における安全に影響を与える最も重要な危険因子について学ぶことができます。彼らは、アルコールや薬物などの影響下での身体の反応能力、不注意、必要な安全装置なしでスピードを出しすぎて運転する危険性について学びます。

具体的な指導内容の提案

- 生徒に、反射板などの安全装置を持っていることを見せてもらいます。
ヘルメットと明るい色の服。
- 合法的な自転車を確認し、生徒たちに自分の自転車を確認してもらいます。
- 暗い朝に生徒を車の多いところに連れ出し、
交通の中で目立つことの重要性を体験してください。
- 校庭で気を散らすものを試してみましょう。
- 朝の交通ではヘルメットの数が少ない。
- 自転車用ヘルメットをかぶって実験を行います。実際には何を保持できるのでしょうか？
- 血中アルコールグラスを使って実験を行います。
- 学生たちが交通渋滞の中で声を上げることについて一緒に話し合う演習 (例: 4 コーナー演習) を作成します。

他の道路利用者

導入中に、学生は、サイズや速度などの観点から、さまざまなタイプの道路利用者をどのように区別できるかに取り組むことができます。ハードな道路ユーザーとソフトな道路ユーザーの違いは何ですか? 視界、速度、距離が限られているなどの理由で、特別な注意を払う必要がある車両はありますか? この教育により、生徒は他の道路利用者の意図や行動を予測できるようになります。他の道路利用者は、中級レベルやトレーニング中のスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- 交通量の多いところに出て、さまざまな道路利用者について話します。例: 速度について。
規模とリスク。
- 道路利用者のタイプのリストを作成し、生徒にサイズごとにランク付けさせます。
速度、視認性、ブレーキ能力。

交通中のインタラクション

中級レベルでは、学生は他の道路利用者に遭遇する際に起こり得るリスクについて学ぶことができます。これに関連して、学生は速度、制動距離、死角、大型車両などの条件を扱うことができます。目的は、学生が交通状況がどのように展開するかを予測し、このようなやり取りの中で安全に移動する方法を学ぶことです。学生は、自分自身の行動が交通における相互作用に良い意味でも悪い意味でもどのような影響を与える可能性があるかについて取り組むことができます。

交通における相互作用は、訓練や下校におけるスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- トラックの運転手に訪問してもらい、死角を試してみましょう。
- 学生が交通の中でどのように行動するかを示す CL 演習を作成します (例: 二重丸や足で投票するなど)。

責任

このトレーニングでは、学生は交通渋滞に巻き込まれる際に、自分自身とお互いに対して負う責任を持って取り組むことができます。生徒たちは自分以外の人に気を配ることを学び、それによって他の道路利用者に対する責任があることを学びます。特に、学生は交通中の最年少に注意を払うことを学び、彼らが年少の子供たちの模範であることを学ぶことができます。

さらに、学生は、グループの力学が学生の行動にどのような影響を与えるかなど、自分の選択を通じて他の道路利用者に良い方向にも悪い方向にも影響を与える可能性があることを学ぶことができます。学生は危険な行為に対して声を上げる能力を身につける必要があります。

責任は初等中等教育におけるスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- 学生たちに若い学生向けのキャンペーンを作成させます。
- 事故事例を教育に活用します。生徒たちに考えさせ、別の方法で何ができたのかを判断させます。

安全なルート

導入中に、生徒は歩行者として安全に移動する方法に取り組むことができます。歩行者にとって安全なルートの特徴は何ですか?これらは、交通量が限られており、概観条件が良好な道路システム、横断歩道、歩行者用トンネル、道路などで機能します。

安全なルートに取り組む中で、学生は歩行者としてどのエリアやルートが最も安全なのか、ルート上のどこで道路を横断するのが最適なのかを学びます。最も安全なルートが必ずしも最短ルートではないことを生徒に理解させることができます。

中級レベルでは、学生は自転車にとって安全なルートの特徴づけるもの、例えば、道路システム、大きな交差点ではなく単純な交差点、交通量が制限されているルートなどに取り組むことができます。道路工事。この作業を通じて、生徒は自転車に乗る人にとってどのルートが最も安全なのか、また自転車道のないルートや大きな信号やロータリーのあるルートなど、どのルートが特に注意が必要なのかを学ぶことができます。安全なルートはトレーニングにおけるスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- 生徒に、自宅から学校までの最も安全なルートを描かせます。
デジタルカードの使用など。
- 地元の地域を散歩し、学生は横断歩道、歩行者用トンネル、道路網、自転車道などの安全なルートの特徴を確認します。

結果の計算

この訓練では、学生は交通事故における自分や他人の決断や行動が自分や他人の安全に影響を与えることを学ぶことができます。生徒は、交通における不適切な行動が個人的および社会的に起こり得る影響を理解することを学ぶことができ、それによって慎重に行動し、自分自身と他人の両方にとって安全な選択をするよう動機づけることができます。

結果の計算は、初期および中期段階のスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- 交通事故の影響について話すことができる交通被害者に訪問してもらいます。
- データと事故の統計を扱う作業を通じて、交通事故がいつ、どのように起こるのが一般的かを学生に示します。

自転車でも安全

トレーニング中、学生は自転車の操縦スキルに取り組むことができます。これは、校庭などの閉鎖された場所での実践的な演習を通じて行うことができます。指導は、安全な発進とブレーキのかけ方、自転車のバランスを崩さずに自分の体を後ろや横に向けること、合図を出せることを生徒が学ぶことに基づいて行うことができます。この指導により、生徒は安全な歩行者から初心者の自転車乗りになれるようになることができます。安全なサイクリングは、中級レベルやトレーニングのスキルや知識の領域ではありません。

具体的な指導内容の提案

- 校庭に自転車レーンを作り、基本的な操縦技術を訓練します。

4.2 事故管理

事故管理を教える場合、その教えを現実に定着させることができます。

多くの生徒が通学途中などで起きた事故の経験を共有できるでしょう。

自転車で転倒したり、車に轢かれたり、交通事故で負傷したりした友人や学校の人々など、身近な人に関することがよくあります。

これらのレポートは授業に組み込むことができ、経験に基づいて事故管理に関して生徒が何をしたか、できたかについて話すことができます。

学校教育では、生徒が支援を学ぶことに重点を置くことができます。校庭で軽傷を負った。指導は生徒自身の経験に基づいて行うことができ、生徒がそれを自分に関連したものとして経験できるレベルで行うことができます。

中級レベルでは、交通事故で負傷した場合に応急処置ができるようにすることに重点を置くことができます。中級レベルの生徒は概要をよりよく把握しているため、より複雑な内容にも対応できるようになります。

訓練では、交通事故で負傷した場合に学生が救命救急処置を行えるようになる内容となっている。これは、生徒たちが応急処置を練習できる体格に達した今から行うことができます。

安全を創造する

この訓練では、学生は他の道路利用者を停止させることで負傷者の周囲に安全を確保できることを学びます。電動車両のない地域のソフトな道路利用者に集中して指導できます。

中級レベルでは、生徒は他の道路利用者を停止させることで、負傷者の周囲の安全を確保することに取り組むことができます。生徒は三角警告板についての知識を身につけ、交通量の少ないエリアでソフトな道路利用者とハードな道路利用者の両方を止める方法を学ぶことができます。

訓練では、学生は、混雑したエリアの交通において負傷者の周囲の安全を確保する際に、どのような状況が特に重要であるかについて取り組むことができます。学生は、信号を正しく使用することで、負傷者と介助者の両方の安全をどのように確保できるかに取り組むことができます。さらに、学生は負傷者の周囲の安全を確保するために負傷者の緊急避難を実行する方法を学ぶことができます。

具体的な指導内容の提案

- 学生が事故を止め、事故を起こすことを練習するロールプレイを作成します。
負傷者の安全。
- 負傷者の緊急避難を訓練する。

傷害の評価

訓練中、学生は負傷者の意識があるかどうかを評価することに取り組むことができます。これは、たとえば、接触の影響や電話による接触の試みについて学習する生徒によって実行できます。

中級レベルでは、学生は負傷者が呼吸しているかどうかを評価し、負傷者の中に自由な気道を確保する方法を学ぶことができます。

この訓練では、学生は負傷者に救命のための応急処置が必要かどうかを評価する方法を学ぶことができます。これに関連して、学生は負傷者が呼吸、循環、心臓に問題を抱えているかどうかを評価する方法を学ぶことができます。学生は、生命を脅かす失血やショックを引き起こす可能性のある怪我を認識することも学ぶことができます。

具体的な指導内容の提案

- 学生が負傷者の評価を練習するロールプレイを作成します。
- 生徒が脈拍を感じたり、音を聞いたりする実践的な演習を行います。
呼吸と気道の確認。
- 生徒たちに、たとえば深刻度に基づいてさまざまな怪我をランク付けさせます。

助けを呼びます

学校では、事故が起きた場合に大人に電話して助けを求めることの大切さを学ぶことができます。また、事故が重大な場合には 112 番に通報する必要があることも学ぶことができます。生徒たちは、自分自身がまだ若すぎてすべての責任を負うことができないため、最も重要な仕事は助けを求めることであるということを理解することができます。

中級レベルでは、生徒は 112 番に緊急電話をかけて助けを求める方法を学びます。生徒は、事故の名前、場所、事故の内容と程度を述べるという形で正しい情報を提供することに取り組むことができます。

研修では、プロのヘルパーとの会話の対処法を学びます。

ここでは、特に 112 番への緊急通報の際に行われなければならない会話について考えます。この場合、生徒たちは冷静さを保ち、場合によっては負傷者の救助活動を手伝う必要があるかもしれません。学生はまた、負傷者の状態が生命を脅かすものではない場合に、どの専門家の助けを求めるべきかを判断できるように練習することもできます。ここでは特に救急部門との連絡が考えられます。

具体的な指導内容の提案

- 助けを呼ばなければならない交通事故についてのロールプレイを作ります。
- クイズを作成し、生徒が正しい情報を思いついた場所を交換します。
112番通報に関連して。

応急処置

最初のトレーニングでは、学生は皮膚の擦り傷や小さなへこみなどの軽傷の治療に取り組むことができます。また、生徒たちが怪我をした人を慰め、安心させて助ける方法についても取り組むことができます。さらに、学生は意識のない人を安定した側臥位に置く方法を学ぶことができます。

中級レベルでは、学生は脳震盪の症状に取り組み、負傷者が頭を打った疑いがある場合にどのように反応するかについての知識を得ることができます。生徒たちは骨折の治療法を学ぶことができます。たとえば、骨折した腕用のアームスリングの作り方を学ぶことなどが考えられます。

訓練では、学生は負傷者が死亡の危険にさらされた場合にどのような助けが必要かを学ぶことができます。ここでは、心肺蘇生法やショック防止の技術を学ぶことができます。学生は、生命を脅かす出血を止める技術も学ぶことができます。

具体的な指導内容の提案

- 生徒たちにさまざまなドレッシングを重ねてもらいます。
- 生徒たちがお互いを慰め、安心させる練習をするロールプレイを作成します。
- 安定した側臥位で運動を行い、心肺蘇生法を練習します。
- 脳震盪の症状に対して CL 演習を行います。

5 一般的なテーマ

5.1 動き

交通教育は、身体能力と実践的な活動に重点が置かれている科目です。

これ自体、運動が教育の自然な一部であることを示唆しています。理論だけで交通安全運転や事故状況への対処を学ぶことはできません。

学生は演習を通じて、また渋滞に出てスキルをテストすることでスキルを練習できます。同様に、状況に応じた演習を使用して、骨折や捻挫などの特定の怪我に対処するトレーニングを行うことができます。

安全なサイクリストになるには、特に多くの身体的訓練が必要です。ほとんどの生徒は学校に通い始める前に、自転車に乗ってバランスを保つ方法を学んでいます。しかし、交通渋滞の中で安全にサイクリングするためには、それ以上のことが必要です。安全なサイクリストになるための基礎は、子供がバランスを崩すことなく片手でハンドルを切り、ブレーキをかけ、方向転換し、合図をし、後ろ向きになれることです。これには訓練が必要であり、校庭の自転車障害物競走など、交通のない閉鎖された場所で行われなければなりません。

生徒が前提条件を満たしていれば、教育の実践的な部分を完全にトラフィックの中に移すことができます。クラスと一緒に散歩したり自転車に乗ったりすることを交通レッスンの一部として組み込むことができます。そこでは、クラスが途中で遭遇するさまざまな状況について話し合い、生徒に対処してもらいます。クラスで自転車旅行に行く場合は、考慮すべき課題や考慮すべきことがたくさんあります。教育。これには、一連の合意を事前に締結し、クラスが帰宅したときにその後の評価を行う必要があります。年長の生徒の場合は、生徒に生産性を持たせることで、動きを取り入れることができます。たとえば、低学年の生徒向けに障害物コースをデザインしたり、他の生徒に教えることができます。

5.2 指導のサポート

交通教育を支援教育の一環として考えるのは当然です。特に、自転車体操や自転車の安全確認、応急処置の基本練習などの訓練系の活動は時間を要しますので、これも支援指導に含めることができます。これにより、学生に没頭する機会が与えられ、主題の実践的な側面に十分な余地が与えられます。

教育のこの部分は、教育者や他の人材が有利に扱うことができます。同様に、学習活動の一部を放課後プログラムの一部、またはキャンプ修学旅行や遠足などの一部として編成することもできます。

5.3 オープンスクール

交通渋滞の中で移動することは、誰にとっても日常生活の一部です。多くの人は日常的に交通事故や応急処置に携わる職業に就いており、それらを教育に含めることは重要です。たとえば、交通計画を作成したり、交通量のカウントを行ったりする自治体の道路および技術行政が考えられます。同様に、独自の角度から交通事故のコストを明らかにできる人々を巻き込むことができます。たとえば、個人的な費用について話す人、交通事故の社会的費用を明らかにできる保険会社、救助隊員などです。

その場で応急処置について話し合います。トラックの運転手が来て右折事故について相談したり、学生が自転車の状態や法的に必要な装備を把握する必要がある場合には、地元の自転車販売店が関与したりすることもできます。

ほとんどの学校では、生徒が頻繁に怪我をします。通常、応急処置コースを受講し、保護者に電話した生徒、教師、保健師、学校事務員が事故対応に関与します。言及された人物は全員、事故管理全般について教育の場で何かを提供できるでしょう。交通事故に関しては、救急車の救助隊員や看護師など、他のゲストティーチャーも参加することができます。地元の消防署を訪れ、交通事故に対応する関連救助隊員と話をすることもできます。

警察は交通法の指導において中心的かつ貴重なパートナーです。

全国どこでも、警察は教師の交通教育を手伝うことができ、その権限により、大きな権限を持って交通安全を伝えることができます。警察は、歩行や自転車のテストなどの実際の路上テストや、学校の敷地内での軽速度検査などに有利に参加できます。警察はしばしば次のような役割を果たします。国および地方の交通キャンペーンには、自治体に参加し、学校も参加することがよくあります。

最も古いクラスでは、原付運転、交通と飲酒、事故の結果などについて話し合うために警察を招待することをお勧めします。警察の仕事の一部は事故に対応することであるため、警察は事故について報告することもできます。特定の事故の原因と結果。

最後に、安全交通評議会、赤十字、デンマーク国民援助、緊急サービス協会など、安全な交通行動と事故管理に専門的に取り組む組織があります。これらの組織のいくつかは、指導のためのアドバイス、ガイダンス、具体的なコースを提供し、教師の能力開発を提供しています。

件名。

5.4 保護者の協力

学校が行う他のすべての活動と同様、交通教育への保護者の関与と参加は非常に重要です。ほとんどの場合、子供たちが学校に通い始めると、親は通学路や交通に大きな関心を持ちます。同校は今後数年間、この関心をさらに緊密な協力へと発展させることを試みることができる。

親は、子供たちが確実に育ち、学校まで徒歩や自転車で登下校するなど、渋滞の中での移動の経験を積めるようにする責任があります。学校の任務は、この教育と知識を補い、すべての子供たちが同じ前提条件を受けられるようにすることです。

保護者に情報を提供し、このテーマに参加してもらうには、保護者とのコミュニケーションが極めて重要です。個人の安全、安全なサイクリング、交通における危険因子などのテーマは、学年度中のさまざまな時期に行われる保護者会の重要な論点となります。

たとえ生徒が成長し、交通手段を自分で移動するようになったとしても、親は依然として子供の交通行為に関する責任と役割について知らされることができます。ここでは、警察や SSP に協力してもらい、麻薬、犯罪、原付運転など他の問題と照らし合わせて交通について話してもらうことが有益です。責任と結果というテーマは、子供と親の両方との子育てに関連します。

保護者もヘルパーとして参加することができます。対象日、対象週、または関連する検査官としてウォーキングやサイクリングのテスト。自転車ワークショップや自転車ツアーを共同で手配することも可能で、関連する専門的な視点が自然な部分として組み込まれます。出発前に、自転車の装備がどうあるべきか、サイクリング旅行でどのように一緒に移動するかを話し合い、旅行中の特に危険な場所の通過方法を確認するのは当然です。

6 横断的なトピックと問題

交通教育には多くの学際的な交差点があり、独立した科目としての交通、学際的な科目の一部としての交通、科目に基づく交通という3つのアプローチから必修科目の指導に組み込むことができます。

6.1 独立した主体としてのトラフィック

生徒が交通ルールに従って歩行や自転車に乗るなど、限られた能力で取り組まなければならない場合、交通行動を独立した科目として取り組むのは当然です。

に関して事故の管理だけでなく、骨折、捻挫/脱臼、脳震盪、傷、皮膚の擦り傷、鼻血の管理などの専門分野にも同じことが当てはまります。

6.2 学際的な文脈におけるトラフィック

交通教育は内容・方法ともに他の教科・科目との接点を持っています。したがって、この主題は、横断的なトピックや問題に基づいて編成された教育コースの学校コース全体に含めることができます。学際的な状況における交通教育の一例は、交通における責任と結果をテーマとしたものであり、これはデンマーク、社会科、おそらくは学際的な協力の一環である。キリスト教の知識。教育は、安全、社会、環境への配慮に基づいて、また倫理的、場合によっては問題に基づいて編成することができます。自ら経験した視点とジレンマ。たとえば、具体的な交通事故から始めて、生徒は事故の原因、どのようなジレンマがあるか、事故がどのような社会経済的影響を与える可能性があるかについて質問することができます。学生たちが事故に共感できるようにすること、また、仕事の中で事故を自分自身の生き方や経験するジレンマに関連づけるように奨励することが重要です。

別の例は健康であり、スポーツ、自然/テクノロジー、デンマーク語、視覚芸術などの学際的なコースの一部として、ウォーキングやサイクリングのアクティビティを自然に組み込むことができます。たとえば、生徒は、学校へのアクティブな交通手段が健康にとってどのような意味を持つかについて取り組むことができます。毎日どれくらい動かすべきですか？それにはどんな意味があるのでしょうか？通学路は健康アカウントにどのようにカウントされるのでしょうか？次に、生徒たちは、できるだけ多くの人が学校に行くときに自分で移動できるように最適な条件を作り出す方法に取り組むことができます。これにより、子供たちや保護者を対象としたキャンペーンが実現し、学生たちは制作やコミュニケーションにおいてデンマーク語のスキルを活かして取り組むことができます。

6.3 学問の出発点

最後に、開始点は、交通関連の側面または領域が交通関連に処理できるかどうかを評価する主題にすることもできます。件名。この例としては、生徒に自然やテクノロジーにおける反射と光について調査させたり、速度や加速度を計算させたり、数学で統計的研究をさせたり、生徒にデンマーク語での専門的な読書や短編小説、短編映画、キャンペーンの制作に取り組ませたりすることが考えられます。学生が体育の一環として自転車トレーニングを行ったり、物理学で反応性や制動距離に取り組んだり、社会科でアイデンティティやグループのダイナミクスについて話したり、生物学で回路に取り組んだりするのと同じように。

交通面を教科に組み込む具体例としては、同省の口頭数学の模試がある。ここでの仕事には、とりわけ、学生たちは通学路でモデリングを行い、距離、速度、縮尺を計算する必要があります。また、統計や救急車を扱うことができ、学生は応答時間を比較し、図を作成し、記述子を使用する必要があります。どのタイプのコースでも、IT やメディア、イノベーションや起業家精神に関わる良い機会があります。後者は特に、学際的なコースや科目ごとに編成されたコースが教育に使用される場合に当てはまります。

7 横断的なテーマ

ITとメディア、言語開発、イノベーションと起業家精神は、学校の必修科目と科目の指導に含める必要がある3つの横断的なテーマです。これは交通教育にも当てはまります。

7.1 言語の発達

交通調査では、会話の共通の基盤を作成する前に避けなければならない専門用語が多数あります。注意深いとはどういう意味ですか？通行権ってどういう意味ですか？交通に関して不注意をどのように見るべきでしょうか？

交通教育は主に対話ベースで行うことができ、それ自体が言語発達に役立つ可能性があります。同時に、言語の発達を具体的な経験や観察と結びつけ、さらに定着させるために、授業を教室の外で行うことは明らかです。

7.2 ITとメディア

交通教育に取り組む中で、生徒たちは自分たちだけでなく、他のすべての人にも大いに関係する問題に精通します。複雑な交差点など、地域内の危険な場所にどう対処すればよいですか？自転車のヘルメットを捨てる学生がいるのはなぜですか？

スピード違反などの危険な行為を断るにはどうすればよいですか？

ITやメディアと連携することで、学生たちを、現在の交通問題に対処する小規模な有益な作品の創造的プロデューサーにさせることができます。これは、学校の保護者向けの情報フィルムになる可能性があります。そこでは、生徒たちが学校周辺の朝の交通をうまく管理する方法を説明します。学校の他の生徒向けに、自転車用ヘルメットの正しい使用方法や学校パトロールの指示に従う方法を示す小さな映画でも構いません。

7.3 イノベーションと起業家精神

交通法規の仕事で遭遇する問題は、イノベーションと起業家精神の観点から有利に考えることができます。たとえば、交通事故に関するデータを扱うことで、学生は取り組むべき結論に達したと考えられます。交通事故で負傷するのは幼児よりも十代の若者の方が多い。ほとんどの事故は都市部で発生しますが、最も深刻な事故は田舎で発生します。教師として、生徒たちにこれらの問題の解決策を創造的に取り組ませるのは当然です。さまざまなソリューション スペースを選択でき、学生は立法提案、技術的ソリューション、キャンペーンなどに取り組むことができます。

8 生徒の前提条件に合わせて指導を適応させる

8.1 差別化を指導し、包括的な学習環境を提供する

交通教育の指導は、生徒の交通移動に関する身体的、運動的、精神的な能力、および交通事故が発生した場合の行動に関連して区別されなければなりません。子供たちは、独立した道路利用者として安全に運転することを徐々に学び、交通事故が発生した場合に応急処置を行うための装備を徐々に身につけなければなりません。

子どもたちの交通に関する課題は、成長と成長に応じて変化します。

最年少の生徒は体が小さいため、大人に比べて交通中の視界が限られており、他の道路利用者から見落とされやすくなります。また、最年少の子供たちは、動きのある要素や多くの視覚的および音響的印象を含む複雑な状況を理解することが難しく感じています。彼らは全体よりも細部に執着することがよくあります。

さらに、距離や速度を判断することが難しく、物事を自己中心的に経験してしまうため、自分以外の視点から物事を見ることが困難になることがあります。

学生は年齢が上がるにつれて、複雑な状況をますます理解し、他の道路利用者の立場に立つことができるようになり、交通状況の予測を学ぶための前提条件が整います。

最年長の生徒の場合、彼らが権威に特別に忠実であることはめったになく、自分で限界を設定したいと考えており、ルールが自分自身で合理的であると判断した場合にのみ従うことが多いことも事実です。また、現在ではアルコールが問題になっており、おそらく原付の後ろに飛び乗りたいという欲求。これらの段階では、生徒がその授業に興味を持ち、関連性のあるものとして経験することが重要です。生徒たちの無敵の経験に挑戦し、共有責任の認識に挑戦するようなアプローチをこの主題に持つのは良いアイデアかもしれません。

教育は、子供の年齢要件に基づいて組織されるだけではありません。彼らが交通分野でどれだけの経験を持っているかを考慮することも重要です。

サイクリングが日常生活の一部ではない子供や家族もいるかもしれません。そのため、一部の子供は他の子供よりも自転車での操縦トレーニングを必要とする場合があります。同様に、原付運転が対処すべき関連問題である場所もあるかもしれませんが、他の場所では関係ありません。

交通教育では実践的な活動に重点が置かれており、主題自体は非常に具体的で行動指向です。これにより、すべての学生を参加させるのに良い条件が生まれます。

特に、身体活動や具体的な課題を必要とする生徒は、自転車のスキルを練習しなければならない場合や、他の生徒を安定した横の位置に座らせる練習を許可されている場合に、快適に感じることをよくあります。

交通教育 - 冊子 2019

2019

第2版

デザイン :BGRAPHIC

この出版物は注文できません。

Web版を参考にさせていただきます。

この出版物は、www.emu.dkからダウンロードできます。

児童教育省

教育と品質委員会

フレデリクスホルムのチャンネル 26

1220 コペンハーゲン K



BØRNE- OG
UNDERVISNINGSMINISTERIET